YAMAHA

J

AVレシーバー

RX-V471

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(4 〜 6 ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「かんたん設置ガイド」が付属しています。はじめに「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
本書および「かんたん設置ガイド」は下記の ウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

安全上のご注意 4
付属品を確認する 7

本機の特長

本機でできること 8
便利な機能が満載！ 9
こんな場合はどうするの！？ 9
各部の名称 10
前面 10
前面ディスプレイ（インジケーター） 11
背面 12
リモコン 13

準備する

使用までの基本的な流れ 14
スピーカーを配置する 15
スピーカーを接続する 17
入出力端子とケーブル 18
映像 / 音声を入出力する端子 18
映像を入出力する端子 18
音声を入出力する端子 18
テレビを接続する 19
再生機器を接続する 23
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど） 23
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど） 26
前面の端子に接続する 26
FM/AM アンテナを接続する 27
録画 / 録音機器を接続する 27
電源コードを接続する 27
スピーカー設定を自動で調整する（YPAO） 28
測定前の準備 28
測定を開始する 29
測定結果を確認する 30
エラーメッセージ 31
警告メッセージ 32

再生する

再生の基本操作 33
スリープタイマーを設定する 33
前面ディスプレイに表示される情報を切り替える 33
入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能） 34
シーン機能の登録内容を変更する 34
好みのサウンドを選ぶ 35
音場効果を楽しむ（シネマ DSP） 36
マルチチャンネル音声を楽しむ（サラウンドデコーダー） 37
音場効果をかけずに再生する（ストレートデコード） 38
原音に忠実な音質で再生する（ダイレクト再生） 38
圧縮音源をダイナミックに再生する（ミュージックエンハンサー） 38
ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ） 38
FM/AM ラジオを聴く 39
周波数を指定して選局する 39
お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット） 39
映像とラジオの音声を組み合わせる 41

再生する（つづき）

iPod の曲を再生する 42
- iPod を接続する 42
- テレビ画面を見ながら iPod を操作する 45
- iPod 本体で操作する 48

Bluetooth 機器の曲を再生する 49
- Bluetooth レシーバーを接続する 49
- Bluetooth 機器とペアリングする 49
- Bluetooth 機器と接続して再生する 50

USB 機器の曲を再生する 51
- USB 機器を接続する 51
- テレビ画面を見ながら操作する 51
- 映像と USB 機器（iPod）の曲を組み合わせる 54

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー） 55
- オプションメニューでできること 55

設定する

本機の設定を変更する（セットアップメニュー） 58
- セットアップメニュー一覧 59
- スピーカーの各種設定を変更する（スピーカー設定） 60
- 音声出力の各種機能を設定する（音声設定） 62
- 音場プログラムやデコーダーを設定する（DSP） 63
- さまざまな機能を設定する（ファンクション設定） 66
- HDMI の各種機能を設定する（HDMI 設定） 67
- テレビ画面に表示される言語を設定する（表示言語） 69

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー） 70
- アドバンスドセットアップメニューを操作する 70
- アドバンスドセットアップメニューでできること 70
- リモコン ID の変更 70
- ビデオ信号方式の変更 71
- 設定の初期化 71

リモコンで外部機器を操作する 72
- テレビのリモコンコードを登録する 72
- 再生機器のリモコンコードを登録する 73
- リモコンコードを初期化する 74
- リモコンコード一覧 75

付録

こんな場合の解決方法 77

故障かな?と思ったら 78
- 電源 / システム 78
- 音声 79
- 映像 80
- FM/AM ラジオ 81
- リモコン 81

メッセージ一覧 82

理想的なスピーカーレイアウト 83

用語 / 技術解説 84
- 音声に関する用語 84
- 映像に関する用語 85
- 映像信号の流れ 86

HDMI について 87
- HDMI コントロール 87
- HDMI 準拠の信号 88

商標について 88

主な仕様 89

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶･植木鉢･コップ･化粧品･薬品･ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示（プラス+とマイナス−）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所 (暖房機のそばなど) には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量 (ボリューム) を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

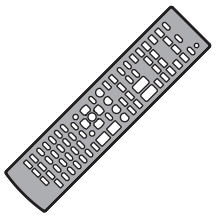
必ず実行

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

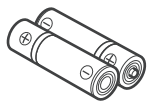
付属品を確認する

すべて揃っていることをお確かめください。

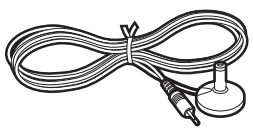
□ リモコン



□ 単 4 乾電池



□ YPAO 用マイク



□ 前面入力端子保護用キャップ



□ AM アンテナ



□ FM アンテナ



□ 取扱説明書（本書）

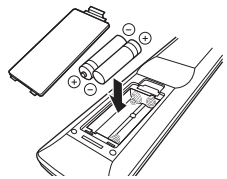


□ かんたん設置ガイド



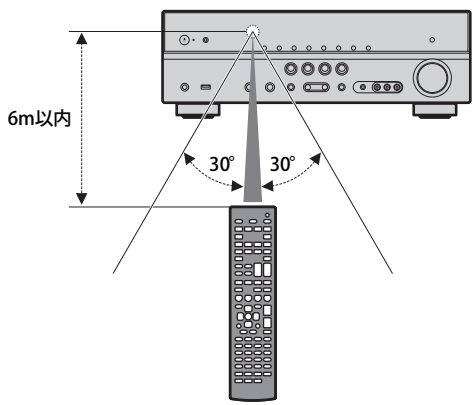
リモコンの準備をする

乾電池を正しい向き（+と−）でリモコンに入れてください。



リモコンの操作範囲

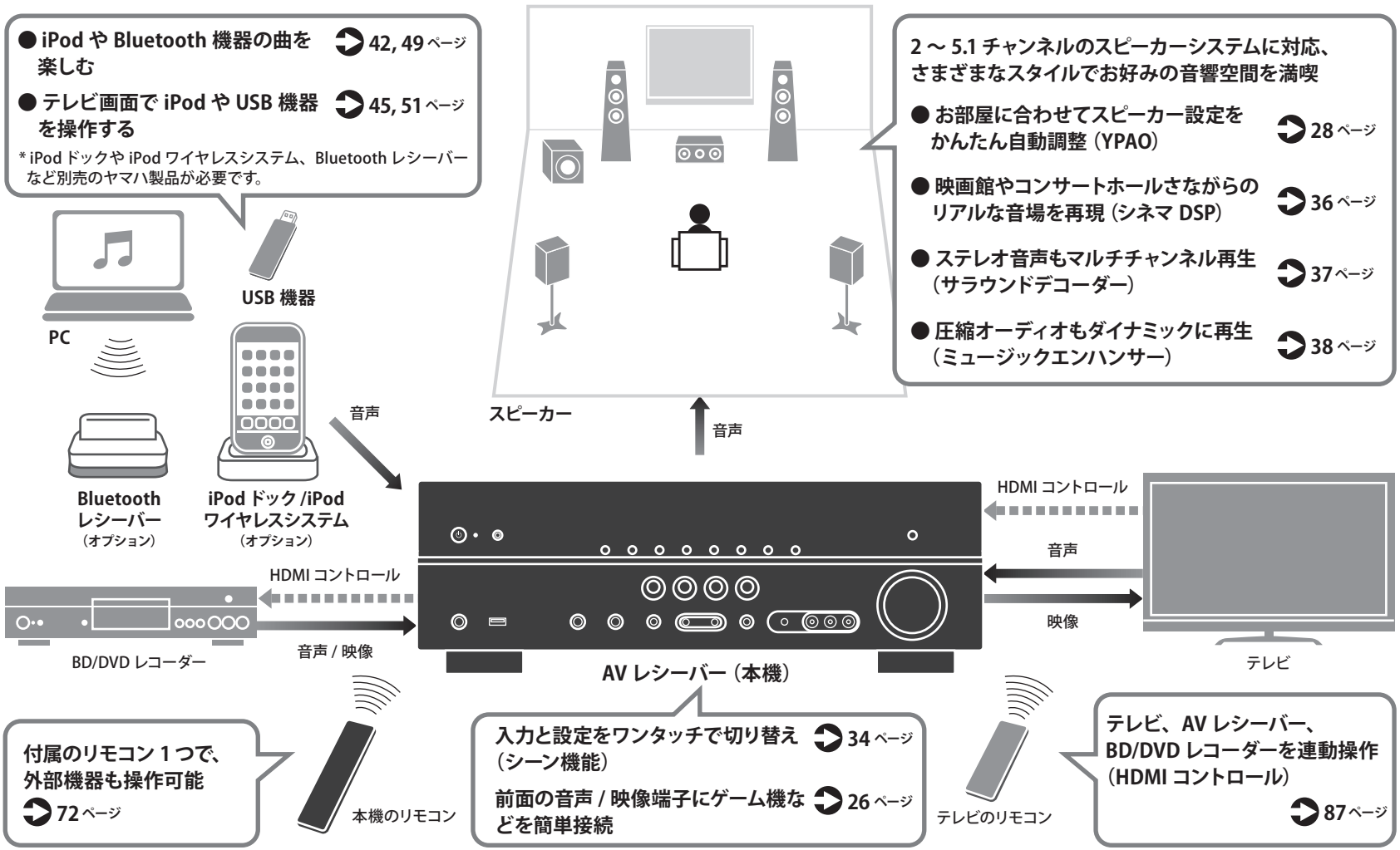
本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



- 本書は製品の生産に先がけて作成されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 「 」は、本機をより良く使うための補足事項です。
- 「 」は、本機の設定や取り扱いについての注意事項です。
- 本書は iPod と iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod と iPhone の両方を意味します。

本機の特長

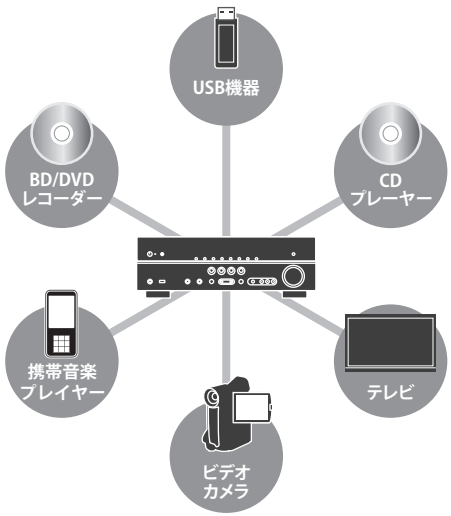
本機でできること



便利な機能が満載！

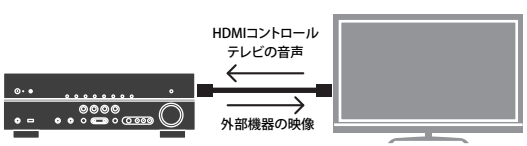
●さまざまな外部機器を接続（19、23ページ）

本機には、複数の HDMI 端子に加えて各種の入力 / 出力端子が装備されているので、BD/DVD レコーダーや CD プレーヤーなどの外部機器を接続できます。前面にも入力端子を装備していますので、ゲーム機やビデオカメラ、USB 機器などを接続して楽しむことができます。



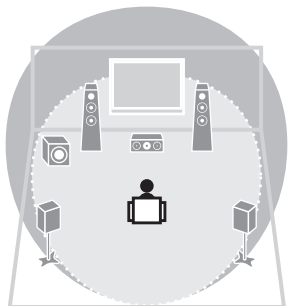
●HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）（19、68 ページ）

ARC 対応のテレビなら、本機との接続は HDMI ケーブル 1 本のみ。この接続だけで、テレビへの映像出力、テレビからの音声入力、HDMI コントロールの信号をすべて伝送できます。



●立体的な音の空間を再現（37 ページ）

最大5.1チャンネルのサラウンド再生に対応。さまざまな音場効果やサラウンドデコーダーを使えば、さらに豊かな音場空間が創り出せます。また仮想のプレゼンススピーカーを構築することで、より立体的な音場を再現し、3Dサラウンドを満喫できます（シネマDSP 3D）。



●内蔵 FM/AM ラジオを聴く（39 ページ）

最大40局のラジオ局を自動または手動でプリセット可能。

●原音に忠実な音質で再生（38 ページ）

ダイレクト再生を使えば、入力音声を最小限の回路だけで出力。原音の音質を存分に堪能できます。

●テレビ画面を使ってかんたん操作

お使いのテレビと本機を HDMI ケーブルで接続すれば、テレビ画面に本機のメニューを表示させて操作することが可能。本機の設定も、テレビ画面を見ながら簡単にできます。

- YPAO（28ページ）
- iPodやUSB機器の操作（45, 51ページ）
- オプションメニュー（55ページ）
- セットアップメニュー（58ページ）

こんな場合はどうするの！？

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせが外部機器と合わない…

オプションメニューの「音声入力」で、本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子に合わせて変更できます（25ページ）。

音色を微調節したい…

セットアップメニューの「イコライザー」で音色を調節できます（61ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている…

セットアップメニューの「リップシンク」で、音声の出力タイミングを調整できます（62ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい…

セットアップメニューの「音声出力」で、本機のHDMI端子に入力された音声の出力先をテレビに設定できます（68ページ）。

電源の切り忘れを防止したい…

セットアップメニューの「オートパワーダウン」で、電源の切り忘れを防ぐことができます（66ページ）。

本機の電源を入れずに、BD/DVDレコーダーを再生したい…

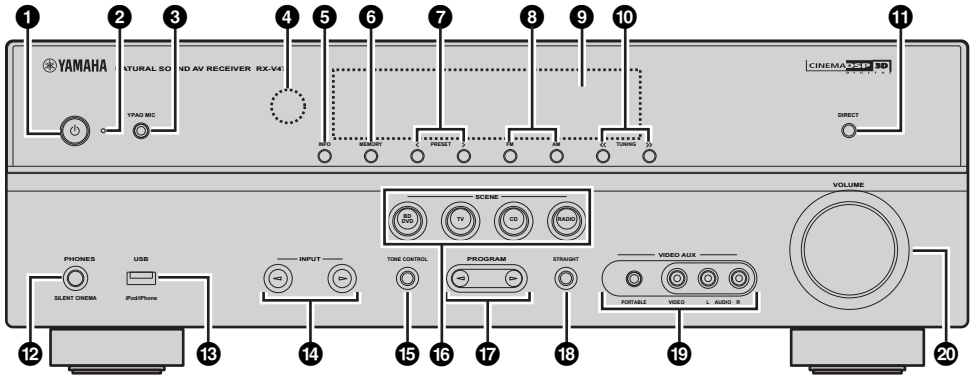
セットアップメニューの「スタンバイスルー」で、本機の電源をオフにしたままBD/DVDレコーダーを再生できます（69ページ）。

ほかにも本機の設定をカスタマイズしたり、確認するための機能がたくさんあります。
詳しくは以下のページをご覧ください。

- シーン機能の設定（34ページ）
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定（63ページ）
- 各種機能の設定（66ページ）
- 音声信号、映像信号などの各種情報（57ページ）
- ご使用前の基本設定（70ページ）

各部の名称

前面



❶ ⏻（電源）キー
電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❷ スタンバイ表示
本機がスタンバイ時、次の場合に点灯します。
- 「スタンバイスルー」が機能している（69 ページ）。
- 「スタンバイ時充電」で iPod を充電している（57 ページ）。
- 「iPod 操作連動」の「電源と入力連動」が「オン」のときに、ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステムが接続されている（44、57 ページ）。

❸ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO 用マイクを接続します（28 ページ）。

❹ リモコン信号受光部
リモコンの信号を受信します（7 ページ）。

❺ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイに表示される情報を切り替えます(33 ページ)。

❻ MEMORY（メモリ）キー
FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（40 ページ）。

❼ PRESET（プリセット）キー
プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（40 ページ）。

❽ FM/AM キー
FM/AM を切り替えます（39 ページ）。

❾ 前面ディスプレイ
各種情報が表示されます（11 ページ）。

❿ TUNING（チューニング）キー
ラジオ周波数を切り替えます（39 ページ）。

⓫ DIRECT（ダイレクト）キー
ダイレクト再生を有効 / 無効にします（38 ページ）。

⓬ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。

⓭ USB 端子
iPod や USB 機器を接続します（51 ページ）。

⓮ INPUT（インプット）キー
入力を切り替えます。

⓯ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー
スピーカー出力の高音 / 低音を調節します。ヘッドホン接続時は、ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します（56 ページ）。

⓰ SCENE（シーン）キー
登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります（34 ページ）。

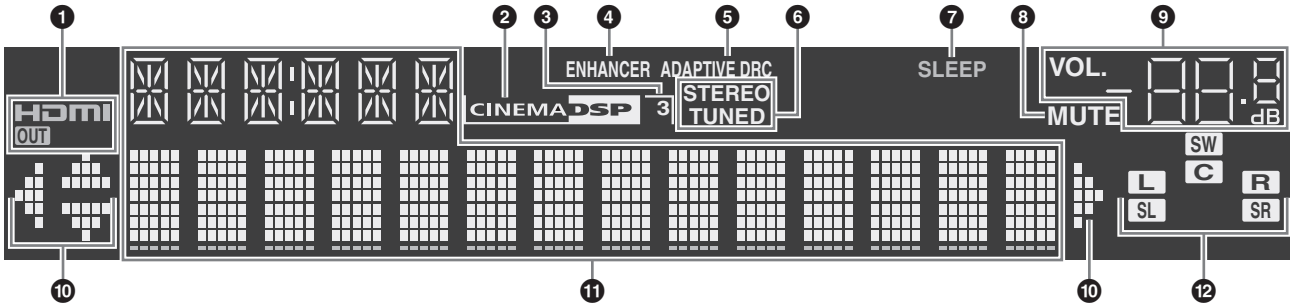
⓱ PROGRAM（プログラム）キー
音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます(35 ページ)。

⓲ STRAIGHT（ストレート）キー
ストレートデコードを有効 / 無効にします（38 ページ）。

⓳ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ビデオカメラやゲーム機などの機器を接続します（26 ページ）。ほこりの侵入を防ぐため、使用しないときは付属の前面入力端子保護用キャップ（7 ページ）を取り付けてください。

⓴ VOLUME（ボリューム）つまみ
音量を調節します。

前面ディスプレイ（インジケーター）



❶ HDMI
HDMI 機器を接続しているときに点灯します。

OUT
HDMI 信号を出力しているときに点灯します。

❷ CINEMA DSP（シネマ DSP）
シネマ DSP を使った音場プログラムが機能しているときに点灯します。

❸ CINEMA DSP 3D（シネマ DSP 3D）
シネマ DSP 3D（37 ページ）が機能しているときに点灯します。

❹ ENHANCER（エンハンサー）
ミュージックエンハンサー(38 ページ）が機能しているときに点灯します。

❺ ADAPTIVE DRC
Adaptive DRC（56 ページ）が機能しているときに点灯します。

❻ STEREO（ステレオ）
FM ラジオのステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED（チューンド）
FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

❼ SLEEP（スリープ）
スリープタイマー設定時に点灯します（33 ページ）。

❽ MUTE（ミュート）
消音中に点滅します。

❾ 音量表示
音量を表示します。

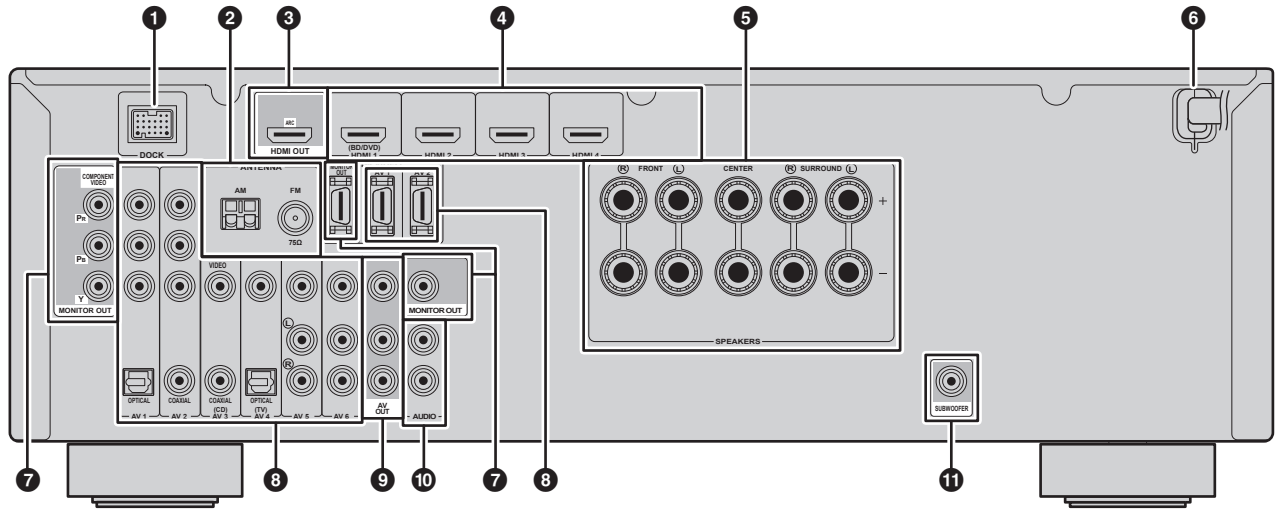
❿ カーソル表示
操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⓫ 情報ディスプレイ
本機の情報が表示されます。
リモコンまたは前面の INFO キーを押すたびに、表示が切り替わります（33 ページ）。

⓬ スピーカー表示
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

- **L** フロントスピーカー（左）
- **R** フロントスピーカー（右）
- **C** センタースピーカー
- **SL** サラウンドスピーカー（左）
- **SR** サラウンドスピーカー（右）
- **SW** サブウーファー

背面



❶ DOCK（ドック）端子
オプションのヤマハ製 iPod ドック、iPod 用ワイヤレスシステム、Bluetooth レシーバーを接続します（43、44、49 ページ）。

❷ ANTENNA（アンテナ）端子
FM アンテナと AM アンテナを接続します（27 ページ）。

❸ HDMI OUT（HDMI アウト）端子
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します。ARC 使用時は、テレビ音声を入力します（19、20、21 ページ）。

❹ HDMI1 ～ 4 端子
HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（23 ページ）。

❺ SPEAKERS（スピーカー）端子
スピーカーを接続します（15 ページ）。

❻ 電源コード
電源コードのプラグをコンセントに接続します（27 ページ）。

❼ MONITOR OUT（モニターアウト）端子

D4 VIDEO 端子	D 端子入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（22 ページ）。
COMPONENT VIDEO 端子	コンポーネントビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（22 ページ）。
VIDEO 端子	ビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（22 ページ）。

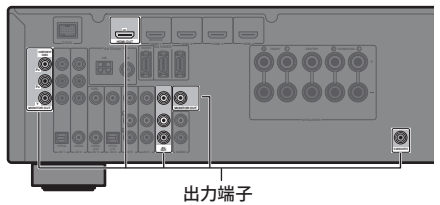
❽ AV1 ～ 6 端子
映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（23 ページ）。

❾ AV OUT（AV アウト）端子
AV5 ～ 6 や AUDIO などアナログ入力を選択時、入力された映像 / 音声を外部に出力します（27 ページ）。

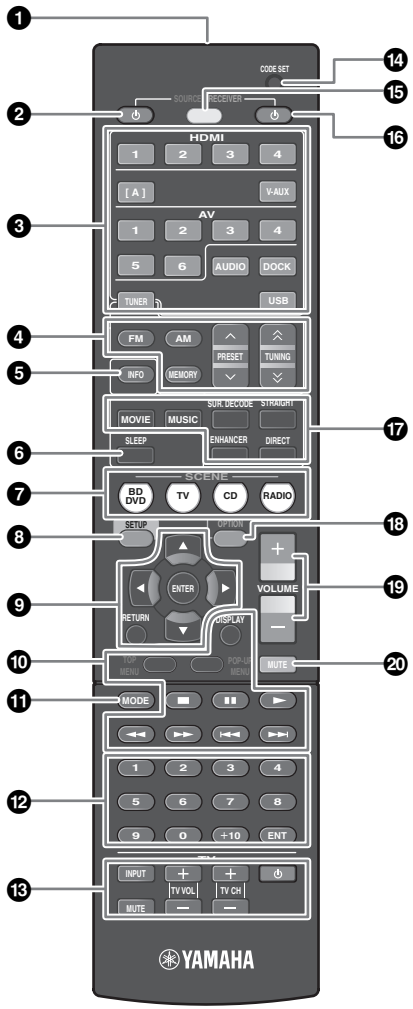
❿ AUDIO（オーディオ）端子
アナログ音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（26 ページ）。

⓫ SUBWOOFER（サブウーファー）端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します（17 ページ）。

映像 / 音声出力端子の周辺は、誤接続を防ぐために白くマークされています。テレビや外部機器への映像 / 音声出力はこれらの端子をご使用ください。



リモコン



❶ リモコン信号送信部
赤外線を送信します。

❷ SOURCE ⏻（ソース電源）キー
外部機器の電源を入 / 切します。

❸ 入力選択キー
再生する入力を選びます。

HDMI1 ～ 4 キー	HDMI1 ～ 4 端子
V-AUX キー	前面の VIDEO AUX 端子
AV1 ～ 6 キー	AV1 ～ 6 端子
AUDIO キー	AUDIO 端子
DOCK キー	DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod ドック、iPod 用ワイヤレスシステム、Bluetooth レシーバー
TUNER キー	FM/AM ラジオ
USB キー	USB 端子に接続した USB 機器
[A] キー	入力は変更せずに、外部操作キーを使って操作する外部機器を変更します。

❹ ラジオキー
FM/AM ラジオを操作します。

FM キー	FM ラジオに切り替えます。
AM キー	AM ラジオに切り替えます。
MEMORY キー	FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。
PRESET キー	プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます。
TUNING キー	ラジオ周波数を切り替えます。

❺ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイに表示される情報を切り替えます（33 ページ）。

❻ SLEEP（スリープ）キー
繰り返し押してスリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

❼ SCENE（シーン）キー
登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります（34 ページ）。

❽ SETUP（セットアップ）キー
セットアップメニューをテレビに表示 / 非表示します（58 ページ）。

❾ メニュー操作キー

カーソルキー	メニューや設定値を選びます。
ENTER キー	選択項目を決定します。
RETURN キー	メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻ります。

❿ 外部機器操作キー
外部操作の録画 / 再生、メニュー表示などを操作します（73、74 ページ）。

⓫ MODE キー
FM ラジオの受信モード（39 ページ）や iPod 操作モード（48 ページ）を変更します。

⓬ 数字キー
FM/AM ラジオの周波数やリモコンコードなどを入力します。

⓭ TV 操作キー
テレビの入力、音量などを操作します（72、73 ページ）。

⓮ CODE SET（コードセット）ボタン
リモコンに外部機器のリモコンコードを登録します（72 ページ）。

⓯ SOURCE/RECEIVER（ソース / レシーバー）キー
リモコンで操作する機器（外部機器 / 本機）を切り替えます。本機を選んでいるときはオレンジ色、外部機器を選んでいるときは緑色に点灯します。

⓰ RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー
本機の電源を入 / 切（スタンバイ）します。

⓱ サウンド選択キー
音場プログラムやデコーダーを選びます（35 ページ）。

⓲ OPTION（オプション）キー
オプションメニューを表示 / 非表示します（55 ページ）。

⓳ VOLUME（ボリューム）キー
音量を調節します（33 ページ）。

⓴ MUTE（ミュート）キー
消音 / 消音解除します（33 ページ）。

本機のリモコンで外部機器を操作するには、あらかじめリモコンコードを登録する必要があります。また、お使いの外部機器が HDMI コントロール対応の場合は、接続するだけで本機のリモコンで操作できることがあります（87 ページ）。

準備する

使用までの基本的な流れ

以下の 8 つの手順で本機を準備します。

1	スピーカーを配置する（15 ページ）	使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーをお部屋に配置します。
2	スピーカーを接続する（17 ページ）	各スピーカーを本機に接続します。
3	テレビを接続する（19 ページ）	テレビを本機に接続します。
4	再生機器を接続する（23 ページ）	ビデオ機器（BD/DVD レコーダーなど）やオーディオ機器（CD プレーヤーなど）を本機に接続します。
5	FM/AM アンテナを接続する（27 ページ）	付属の FM アンテナと AM アンテナを本機に接続します。
6	録画 / 録音機器を接続する（27 ページ）	録画 / 録音機器などの外部機器を本機に接続します。
7	電源コードを接続する（27 ページ）	すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに接続します。
8	スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）（28 ページ）	音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO）。

これで使用前に必要な接続および設定はすべて完了です。映画、音楽、ラジオなど、本機での再生を存分にお楽しみください！

1 スピーカーを配置する

使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファー（アンプ内蔵）をお部屋に配置します。
ここでは、2.1 ～ 5.1 チャンネルを使った代表的な接続例を説明します。

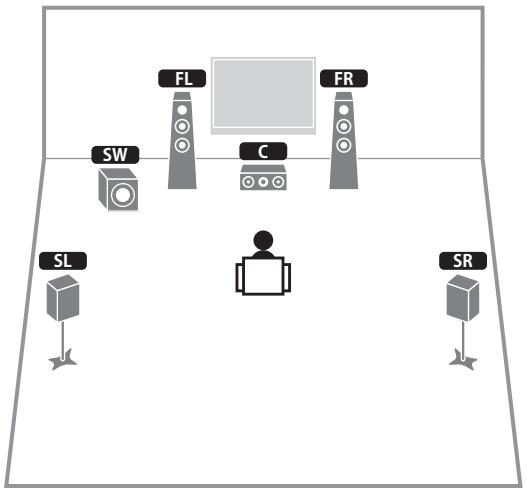
注意

- スピーカーはインピーダンスが 6 Ω以上のものをお使いください。

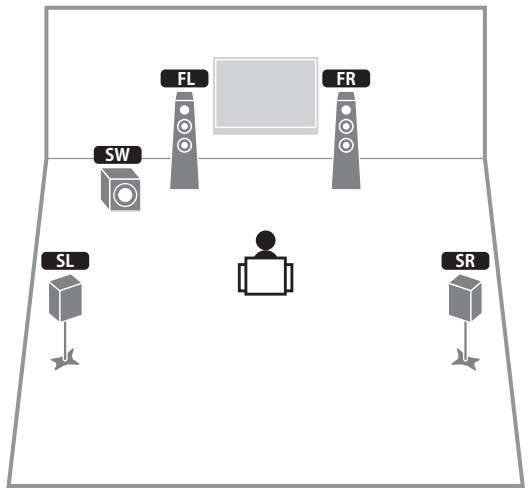
スピーカーの種類	略称	機能	スピーカーシステム(チャンネル数)			
			5.1	4.1	3.1	2.1
フロント（左）	FL	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。	○	○	○	○
フロント（右）	FR		○	○	○	○
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。	○		○	
サラウンド（左）	SL	サラウンド左 / 右チャンネルの音声と効果音を出力します。7.1 または 6.1 チャンネルの音声が入力された場合は、サラウンドスピーカーから、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。	○	○		
サラウンド（右）	SR		○	○		
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。	○	○	○	○

- 理想的なスピーカーの配置図については、「理想的なスピーカーレイアウト」（83 ページ）をご覧ください。

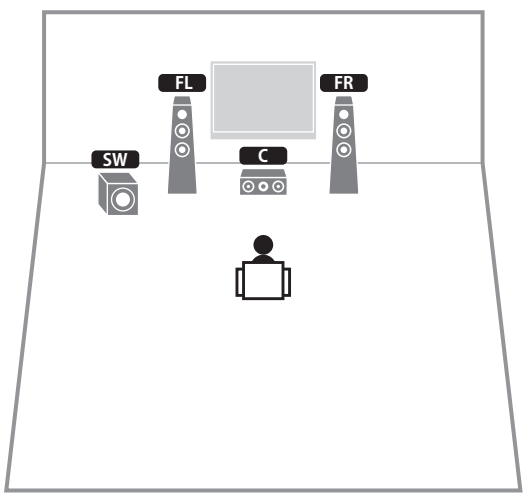
5.1 チャンネルシステム



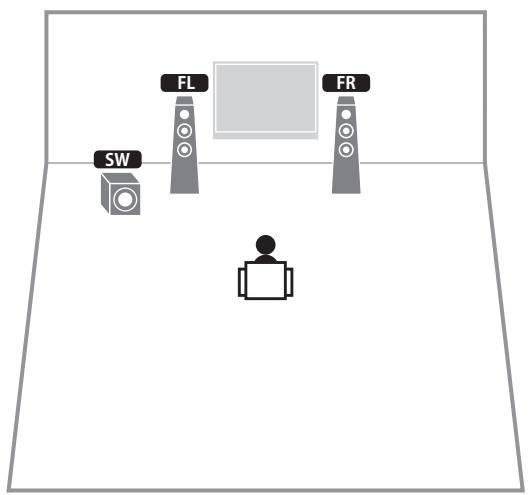
4.1 チャンネルシステム



3.1 チャンネルシステム



2.1 チャンネルシステム



2 スピーカーを接続する

お部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、5.1 チャンネルシステムの接続図を記載しています。これ以外は、5.1 チャンネルシステムの接続図を参考に、配置したスピーカーを接続してください。

注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源ケーブルのプラグをコンセントから外してください。
- サブウーファーを接続する前に、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。

必要なケーブル（市販品）

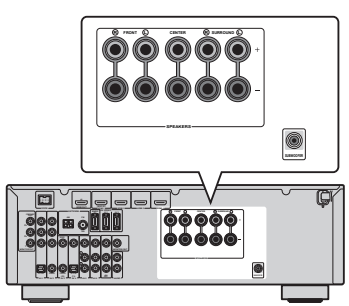
□ スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）



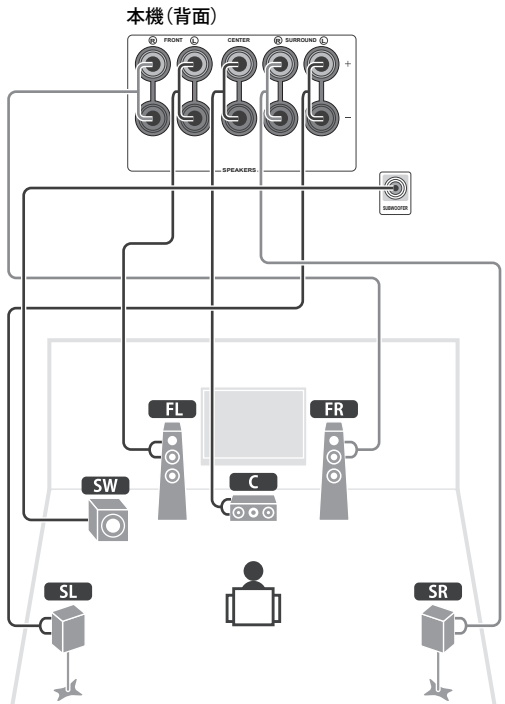
□ サブウーファー用モノラルピンケーブル（1 本）



本体背面のスピーカー端子



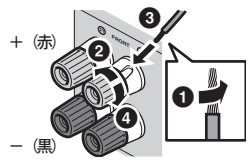
5.1 チャンネルシステム



■ スピーカーケーブルを接続する

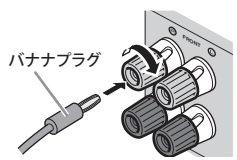
スピーカーケーブルは 2 本で一対になっています。
1 本で本機とスピーカーの−（マイナス）端子どうし、もう 1 本で+（プラス）端子どうしを接続してください。
2 本の色が異なる場合、黒を−（マイナス）側、もう一方を+（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。
② スピーカー端子をゆるめる。
③ 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
すき間は端子下側にもあります。側面から差し込みにくい場合は、下側のすき間に差し込んでください。
④ 端子を締め付ける。



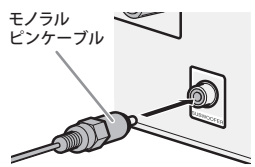
バナナプラグを使用する場合

スピーカー端子を締め付け、端子にバナナプラグを差し込む。



■ サブウーファーを接続する

サブウーファーの接続には、モノラルピンケーブルを使います。接続する前に、サブウーファーの電源をオフにしてください。



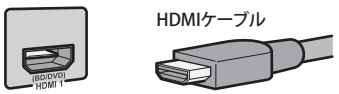
入出力端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

映像 / 音声を入出力する端子

HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



HDMIケーブル

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル(19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- HDMI ⇔ DVI-D ケーブルを使って、外部機器の DVI 端子と接続する場合は、映像信号が正常に伝送されないことがあります。

- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル (ARC)、3D 映像の伝送 (スルー出力) に対応しています。

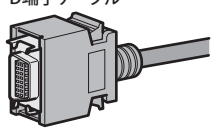
映像を入出力する端子

D4 VIDEO 端子

映像を輝度信号 (Y)、青色差信号 (PB)、赤色差信号 (PR) に分離し、コントロール信号 (走査線、アスペクト比などの情報) を含めて伝送します。接続には、D 端子ケーブルを使います。

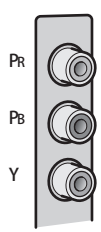


D端子ケーブル

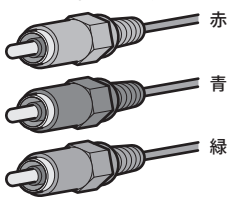


COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号 (Y)、青色差信号 (PB)、赤色差信号 (PR) に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。



コンポーネントケーブル

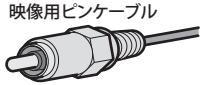


VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



映像用ピンケーブル



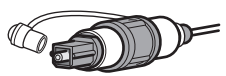
音声を入出力する端子

OPTICAL 端子

光デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



光デジタルケーブル

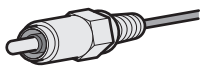


COAXIAL 端子

同軸デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



同軸デジタルケーブル

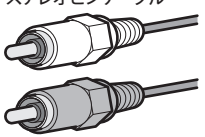


AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。



ステレオピンケーブル

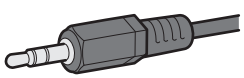


PORTABLE 端子

アナログステレオ音声を伝送します。
接続にはステレオミニプラグのケーブルを使用します。

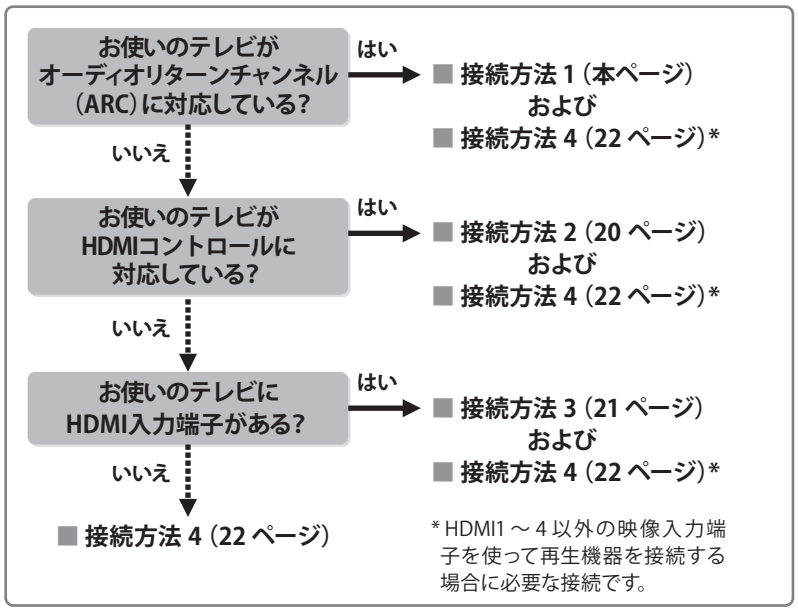


ステレオミニプラグケーブル



3 テレビを接続する

テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。
また、テレビ番組の音声を本機で楽しむことができます。
テレビに備わっている映像入力端子や機能により、推奨する接続方法が異なります。
テレビの取扱説明書をご確認のうえ、接続方法を選んでください。



本機の映像入力端子（HDMI、D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO、VIDEO）から入力された映像は、同じ種類の出力端子から出力されます（86 ページ）。再生する際は再生機器に応じてテレビ側の入力も切り替えてください。

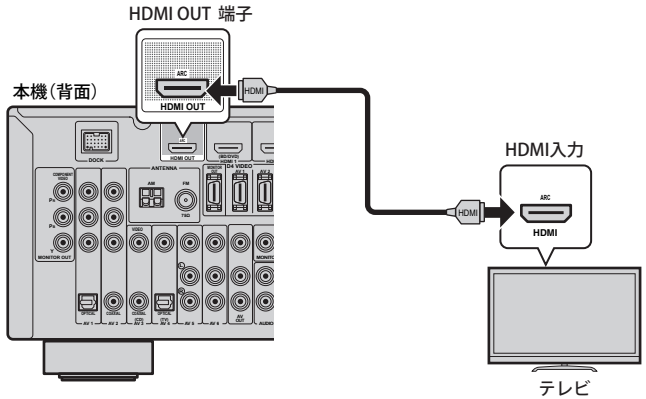
● HDMI コントロールとは…
HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。さらに、本機と HDMI ケーブルで接続した HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）も連動します。詳しくは「HDMI コントロール」（87 ページ）をご覧ください。

● オーディオリターンチャンネル（ARC）とは…
お使いのテレビが ARC に対応している場合は、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

■ 接続方法1（ARC 対応のテレビ）

HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、セットアップメニューの「HDMI 設定」（67 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。



- テレビと本機を HDMI ケーブルで接続すると、テレビ画面を見ながら本機の各種機能を設定できます（58 ページ）。
- アナログ映像入力端子（D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO、VIDEO）に再生機器を接続した場合は、本機とテレビも同じ種類のアナログ映像端子で接続する必要があります（22 ページ）。

必要な設定

HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。

1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

次ページにつづく

2 HDMI コントロールを使うための設定をする。

① テレビ、および HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。
HDMI コントロールを有効にする設定方法は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

② テレビの電源を切る。
連動して本機と再生機器の電源も切れます。連動しない場合は、手動で電源を切ってください。

③ テレビの電源を入れる。
連動して本機の電源も入ります。連動しない場合は、手動で電源を入れてください。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 再生機器の電源を入れ、以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源の入 / 切、音量調節、音声出力機器の選択などの操作を行い、本機が連動するか確認する。
連動しない場合は、セットアップメニューの「HDMI コントロール」（67 ページ）が「オン」になっているかを確認してください。

- 音声が正しく出力されない場合は、セットアップメニューの「ARC」（67、68 ページ）を「オフ」にして、光デジタルケーブルで TV を接続してください（本ページ）。
- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源コードのプラグを差し直したりすると改善されることがあります。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。

3 ARC を使うための設定をする。

① テレビの ARC 機能を有効にする。
ARC 機能を有効にする設定方法は、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

② テレビ側の入力設定を本機の HDMI OUT 端子からの映像に切り替える。

これで設定は完了です。

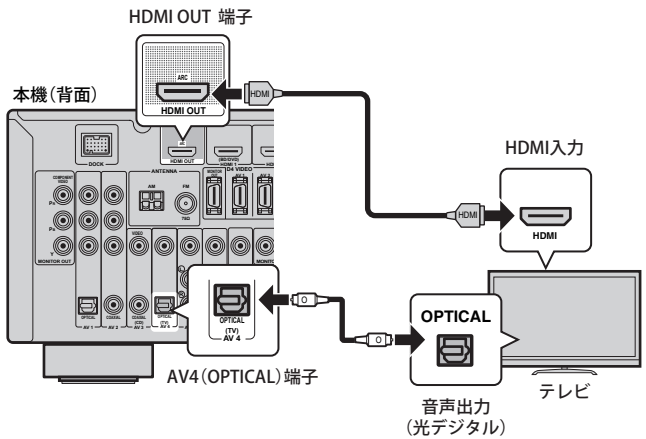
テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AV4」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。
切り替わらない場合は、セットアップメニューの「ARC」（67、68 ページ）が「オン」になっているか確認してください。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AV4」が設定されています。AV4 端子に別の機器を接続している場合は、セットアップメニューの「TV 音声入力」（67、68 ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（34 ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定も合わせて変更してください。

■ 接続方法 2（HDMI コントロール対応のテレビ）

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、セットアップメニューの「HDMI 設定」（67 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。



- テレビと本機を HDMI ケーブルで接続すると、テレビ画面を見ながら本機の各種機能を設定できます（58 ページ）。
- アナログ映像入力端子（D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO、VIDEO）に再生機器を接続した場合は、本機とテレビも同じ種類のアナログ映像端子で接続する必要があります（22 ページ）。

必要な設定

HDMI コントロールを使うには、あらかじめ設定が必要です。

1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

次ページにつづく

2 HDMI コントロールを使うための設定をする。

① テレビ、および HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。
HDMI コントロールを有効にする設定方法は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

② テレビの電源を切る。
連動して本機と再生機器の電源も切れます。連動しない場合は、手動で電源を切ってください。

③ テレビの電源を入れる。
連動して本機の電源も入ります。連動しない場合は、手動で電源を入れてください。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 再生機器の電源を入れ、以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源の入 / 切、音量調節、音声出力機器の選択などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

これで設定は完了です。

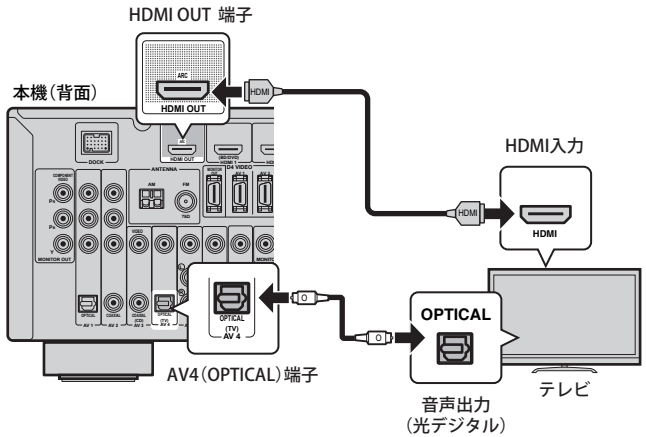
テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AV4」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。連動しない場合は、セットアップメニューの「HDMI コントロール」（67 ページ）が「オン」になっているかを確認してください。

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源コードのプラグを差し直したりすると改善されることがあります。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AV4」が設定されています。AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、セットアップメニューの「TV 音声入力」（67、68 ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（34 ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定も合わせて変更してください。

■ 接続方法 3（HDMI 入力端子があるテレビ）

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



AV4 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AV4」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

- テレビと本機を HDMI ケーブルで接続すると、テレビ画面を見ながら本機の各種機能を設定できます（58 ページ）。
- アナログ映像入力端子（D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO、VIDEO）に再生機器を接続した場合は、本機とテレビも同じ種類のアナログ映像端子で接続する必要があります（22 ページ）。
- AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、ほかの音声入力端子（AV1 ～ 6、AUDIO のいずれか）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定を合わせて変更してください（34 ページ）。

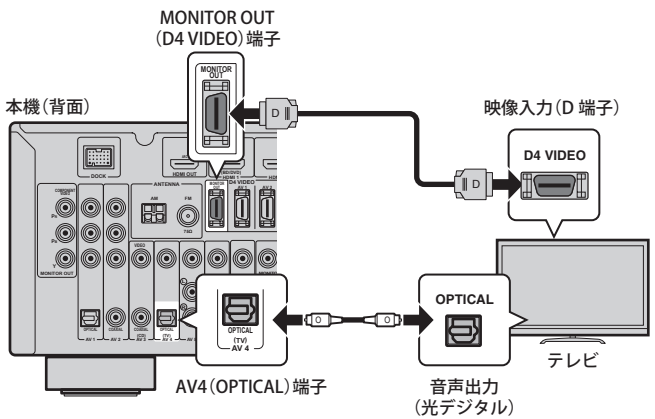
■ 接続方法 4

再生機器から入力されたアナログ映像は、同じ種類の MONITOR OUT 端子（D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO、VIDEO）からテレビへ出力されます。
接続したい再生機器の映像出力に応じて、同じ種類の映像出力端子をテレビと接続してください。
AV4 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AV4」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

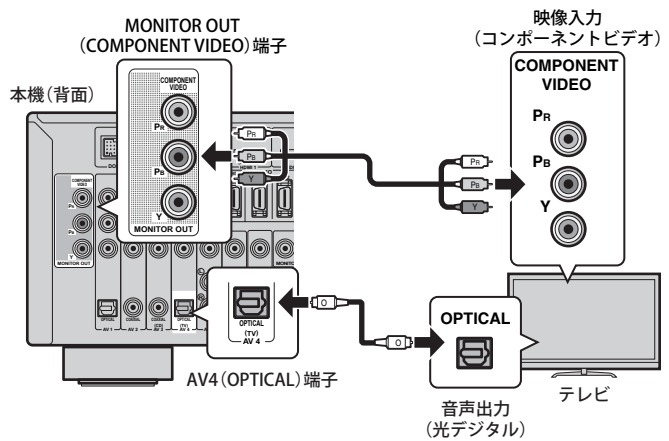
- HDMI ケーブル以外でテレビと接続した場合、本機のメニュー（設定メニュー、iPod や USB 機器の再生メニューなど）がテレビ画面に表示されません。

- AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、ほかの音声入力端子（AV1 ～ 6、AUDIO）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定を合わせて変更してください （34 ページ）。

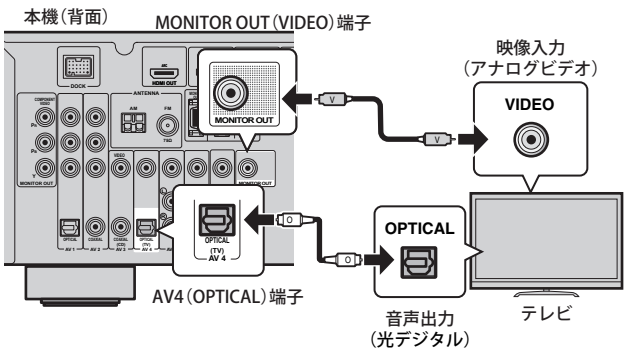
D4 VIDEO 接続（D 端子ケーブルを使用）



COMPONENT VIDEO 接続（コンポーネントケーブルを使用）



VIDEO 接続（映像用ピンケーブルを使用）



4 再生機器を接続する

本機は HDMI 端子をはじめとする各種の入力端子を装備しています。接続する再生機器の出力端子により、接続方法を選んでください。
iPod や Bluetooth 機器、USB 機器の接続については、以下のページをご覧ください。
- iPod を接続する（42 ページ）
- Bluetooth レシーバーを接続する（49 ページ）
- USB 機器を接続する（51 ページ）

ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）

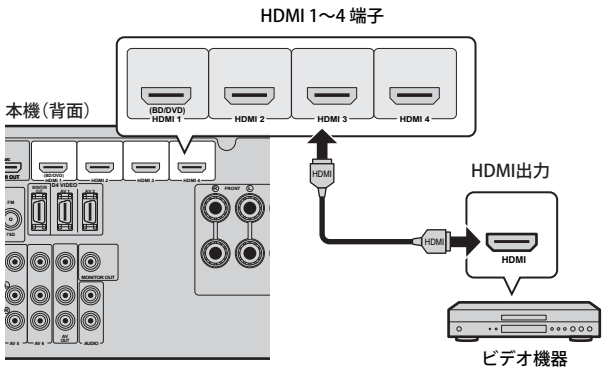
BD/DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

!

- **本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子に合わせて変更してください（25 ページ）。**

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



HDMI1 〜 4 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

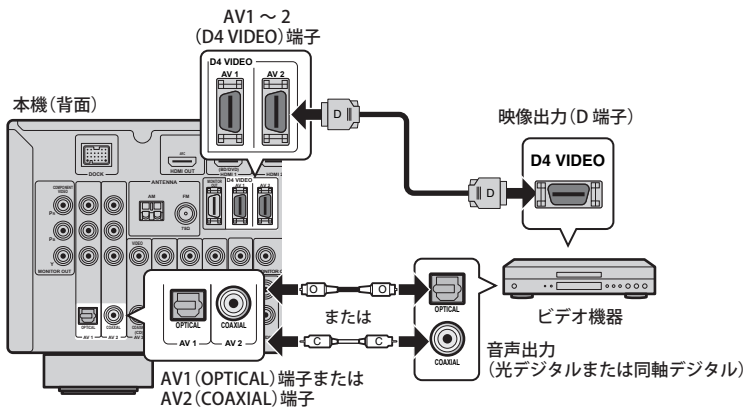
!

- **HDMI1 〜 4 端子に接続した外部機器を視聴するには、テレビを HDMI OUT 端子に接続する必要があります（19 〜 21 ページ）。外部機器を再生する際は、テレビの入力設定を本機に接続している HDMI 入力に切り替えてください。**

■ D 端子接続

D 端子ケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたは同軸デジタル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 〜 2）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
D 端子	光デジタル	AV1（D4 VIDEO ＋ OPTICAL）
	同軸デジタル	AV2（D4 VIDEO ＋ COAXIAL）



AV1 〜 2 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

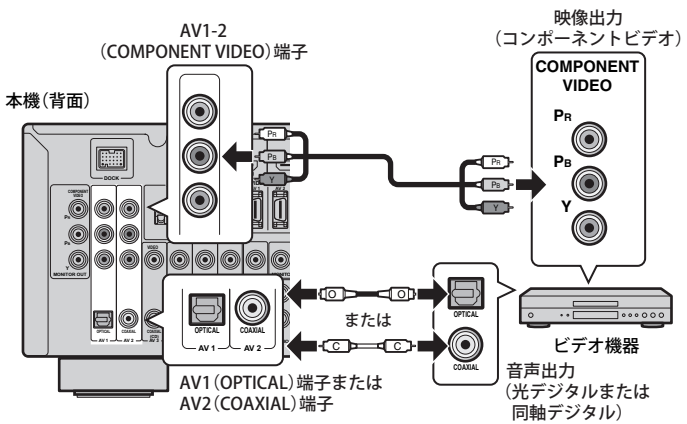
!

- **AV1 または AV2 を使って再生機器を接続する場合、D4 VIDEO 端子 /COMPONENT VIDEO 端子の両方にケーブルを接続しないでください。両方にケーブルを接続した場合、画像が乱れることがあります。**
- **AV1 〜 2（D4 VIDEO）端子に接続した外部機器を視聴するには、テレビを MONITOR OUT（D4 VIDEO）端子に接続する必要があります（22 ページ）。外部機器を再生する際は、テレビ側を本機と接続した D4 ビデオ入力に切り替えてください。**

■ コンポーネントビデオ接続

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたは同軸デジタル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 2）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポーネントビデオ	光デジタル	AV1（COMPONENT VIDEO ＋ OPTICAL）
	同軸デジタル	AV2（COMPONENT VIDEO ＋ COAXIAL）



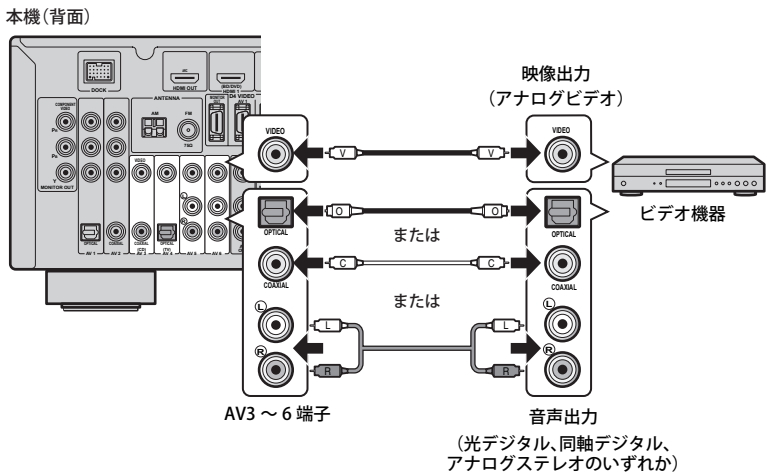
AV1 ～ 2 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- AV1 または AV2 を使って再生機器を接続する場合、D4 VIDEO 端子 /COMPONENT VIDEO 端子の両方にケーブルを接続しないでください。両方にケーブルを接続した場合、画像が乱れることがあります。
- AV1 ～ 2（COMPONENT VIDEO）端子に接続した外部機器を視聴するには、テレビを MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続する必要があります（22 ページ）。外部機器を再生する際は、テレビ側を本機と接続したビデオ入力に切り替えてください。

■ アナログビデオ接続

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV3 ～ 6）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
アナログビデオ	同軸デジタル	AV3（VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV4（VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV5（VIDEO ＋ AUDIO）
		AV6（VIDEO ＋ AUDIO）



AV3 ～ 6 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- AV3 ～ 6（VIDEO）端子に接続した外部機器を視聴するには、テレビを MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続する必要があります（22 ページ）。外部機器を再生する際は、テレビ側を本機と接続したビデオ入力（D4 ビデオ入力など）に切り替えてください。

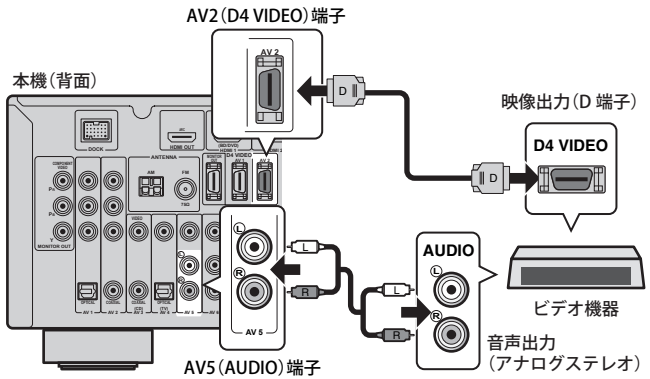
■ 入力端子（映像 / 音声）の組み合わせを変更する

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子に合わせて変更できます。これにより、以下のような出力端子（映像 / 音声）を持つビデオ機器との接続が可能になります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1 ～ 4	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
	同軸デジタル	HDMI1 ～ 4	AV2 ～ 3（COAXIAL）
	アナログステレオ	HDMI1 ～ 4	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO
D 端子	アナログステレオ	AV1 ～ 2（D4 VIDEO）	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO
コンポーネントビデオ	アナログステレオ	AV1 ～ 2 （COMPONENT VIDEO）	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO

必要な設定

例として、映像は AV2（D4 VIDEO）端子、音声は AV5（AUDIO）端子に接続した場合の設定手順を説明します。



1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源ケーブルの接続が完了したら、本機とテレビの電源を入れる。

2 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

3 AV2 キーで入力を「AV2」（本機の映像入力端子）に切り替える。

4 OPTION キーを押す。



5 カーソルキー（△ / ▽）を繰り返し押して「Audio In」を選ぶ。



6 ENTER を押す。



7 カーソルキー（◁ / ▷）を繰り返し押して「AV5」（本機の音声入力端子）を選ぶ。



入力
HDMI1-4、AV1-2
設定
HDMI1-4、AV1-6、AUDIO

8 OPTION キーを押す。

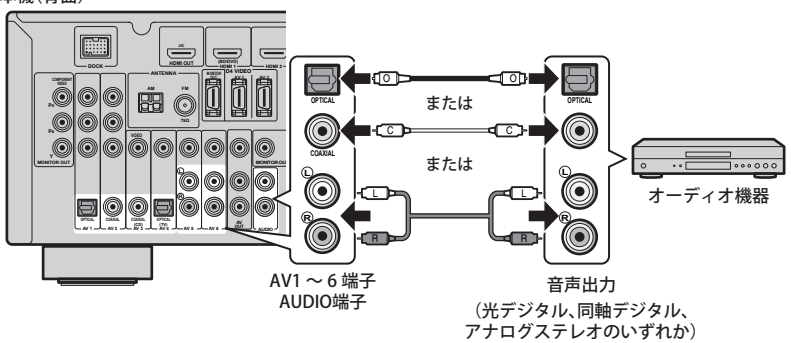
これで設定は完了です。
AV2 キーで入力を「AV2」に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）

CD プレーヤー、MD プレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。
接続するオーディオ機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
同軸デジタル	AV2 ～ 3（COAXIAL）
アナログステレオ	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO

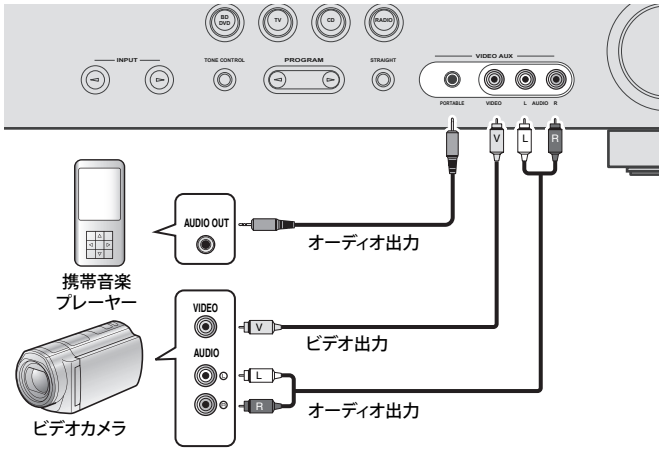
本機（背面）



AV1 ～ 6 キー、AUDIO キーで入力を選ぶと、オーディオ機器の音声が本機から出力されます。

前面の端子に接続する

ビデオカメラやゲーム機などの機器を一時的に接続する場合は、前面の VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。
接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。

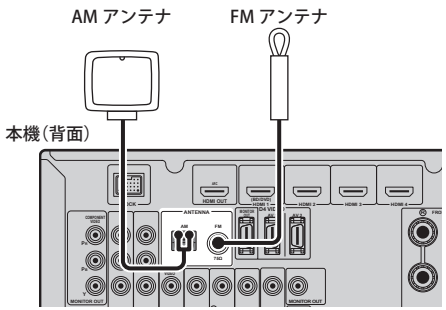


V-AUX キーで入力を「V-AUX」に切り替えると、接続した機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

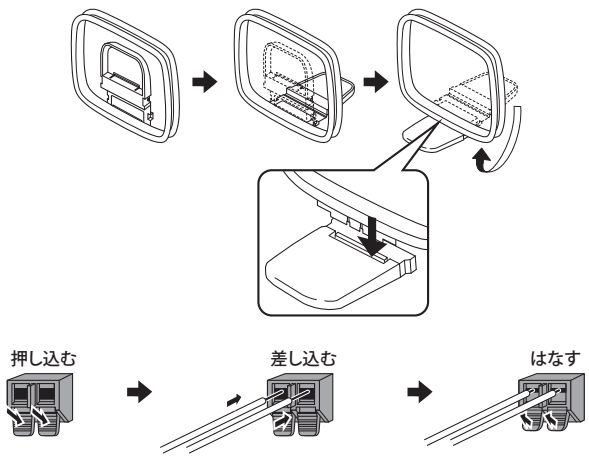
- PORTABLE 端子と AUDIO 端子の両方を接続した場合は、PORTABLE 端子の音声が出力されます。
- ほこりの侵入を防ぐため、使用しないときは付属の前面入力端子保護用キャップを取り付けてください。

5 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。



AM アンテナの組立と接続

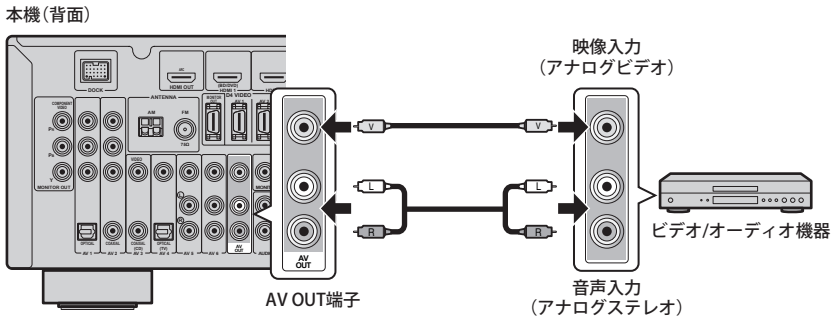


- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

6 録画 / 録音機器を接続する

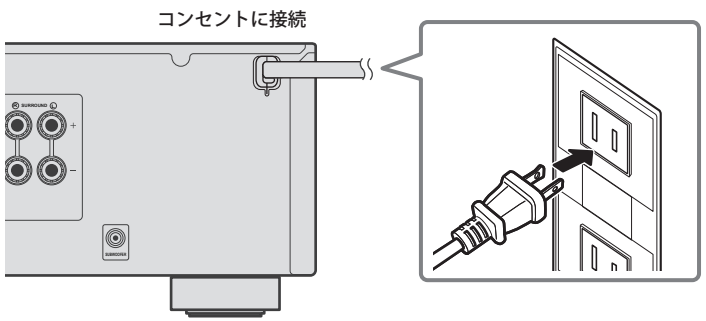
録画 / 録音機器を本機に接続するには、AV OUT 端子を使います。これらの端子からは、本機で選択している入力のアナログ映像やアナログ音声が出力されます。

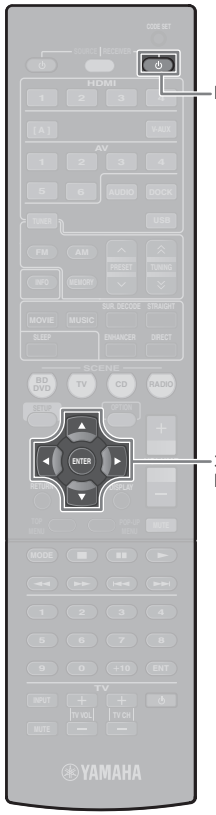
- ビデオ機器の映像 / 音声をダビングするには、ビデオ機器を本機の AV5 ～ 6 端子または VIDEO AUX（VIDEO/AUDIO）端子に接続してください。
- オーディオ機器の音声をダビングするには、オーディオ機器を本機の AV5 ～ 6 端子、AUDIO 端子、VIDEO AUX（AUDIO）端子のいずれかに接続してください。



7 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。





8 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

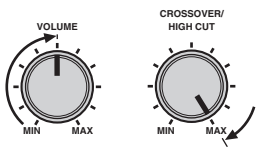
- YPAO 使用時は次のことにご注意ください。
  - テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
  - 測定中は、音量が 0dB に固定されます。
  - 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。また、ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
  - 測定中はお部屋を静かに保ってください。
  - ヘッドホンは接続しないでください。
  - YPAO は前面ディスプレイを見ながら操作することも可能です。

測定前の準備

1 RECEIVER ⏻ キーで本機の電源を入れる。

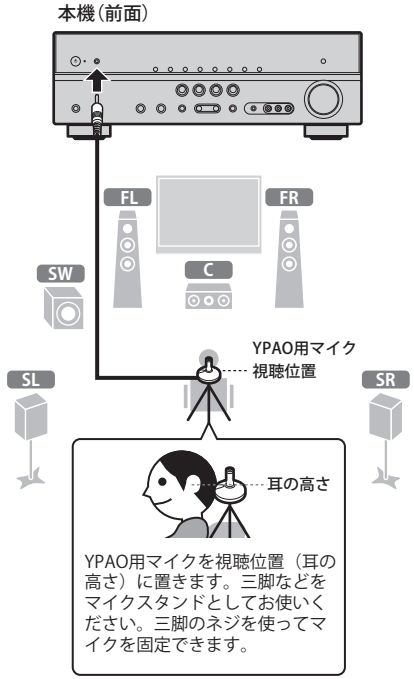
2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機の HDMI OUT 端子からの映像に切り替える。

3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



- 無信号時に自動で電源をオフにする機能があるサブウーファーをお使いの場合は、一時的に機能をオフにしてください。

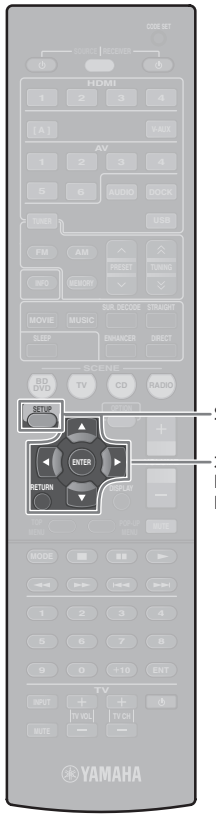
4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置き、YPAO 用マイクを前面の YPAO MIC 端子に接続する。



テレビに以下の画面が表示されます。



- 操作を中止するには、測定前に YPAO 用マイクを取り外すか、またはカーソルキー（▽）で「終了」を選び、ENTER キーを押してください。



測定を開始する

以下の手順で測定を行います。

- スピーカーと YPAO 用マイクの間に障害物があると正しい測定はできません。測定中はお部屋の隅に移動するか退出してください。
- 所要時間は約3分です。

1 「測定開始」が選ばれていることを確認し、SETUP キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTER キーを押します。

- 測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。そのまま終了する場合は、ENTER キーを押してから「終了」を選び、ENTER キーを押します。
- 一時中断した時点から測定を再開するには、「再測定」を選び、ENTER キーを押します。

測定が終わると、テレビに以下の画面が表示されます。



- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（31 ページ）または「警告メッセージ」（32 ページ）をご覧ください。

2 「保存 / 終了」が選ばれていることを確認し、ENTER キーを押す。

- 測定結果を確認するには、カーソルキー（▽）で「測定結果」を選びます。詳しくは「測定結果を確認する」（30 ページ）をご覧ください。



3 「保存」が選ばれていることを確認し、ENTER キーを押す。

- 測定結果を保存せずに終了する場合は、カーソルキー（▷）で「キャンセル」を選び、ENTER を押してください。

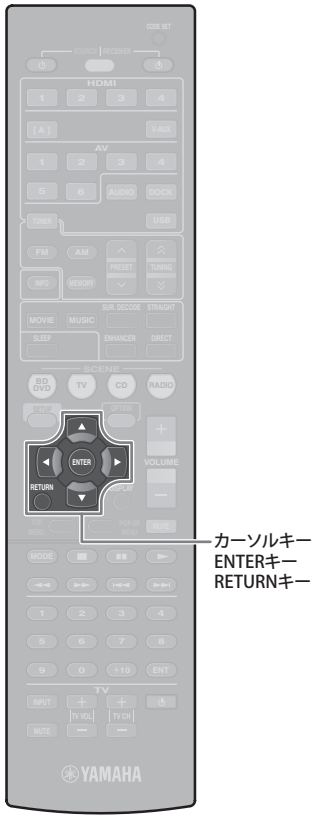


4 YPAO 用マイクを取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。YPAO 用マイクを本機から取り外してください。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

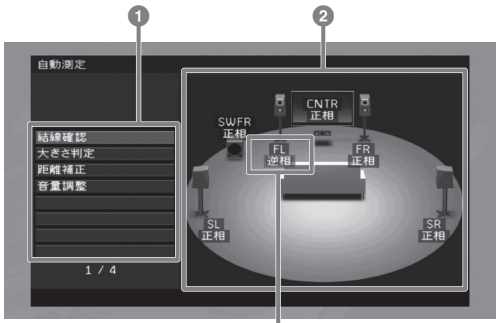


測定結果を確認する

YPAO による測定結果を確認します。

1 測定終了後に、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押す。

以下の画面が表示されます。



問題があるスピーカーに赤枠のメッセージが表示されます。

❶ 測定項目

❷ スピーカーごとの測定結果

2 カーソルキー（△ / ▽）で項目を選ぶ。

結線確認	スピーカーの極性 **正相：**スピーカーケーブルが正しい極性（+と−）で接続されている。 **逆相：**極性（+と−）が逆に接続されている可能性がある。 意図的に極性を逆にしたスピーカーの場合は、正しく接続されていても「逆相」と表示されることがあります。
大きさ判定	スピーカーの大きさ **大：**低音域を効果的に出力できるスピーカーが接続されている。 **小：**低音域を効果的に出力できないスピーカーが接続されている。 SWFR に表示される数値は、サブウーファーのクロスオーバー周波数を表しています。
距離補正	視聴位置とスピーカーの距離
音量調整	スピーカーの音量補正値

- 問題があるスピーカーは赤枠で表示されます。接続や配置を確認したあと、必要に応じて「警告メッセージ」（32 ページ）を参照のうえ、YPAO を再度実行してください。

3 確認後に前の画面に戻るには、ENTER キーまたは RETURN キーを押す。

- **（測定結果に問題がない場合）**カーソルキー（▽）を押して「保存 / 終了」を選んでから、ENTER キーを押します。「保存」が選択されていることを確認し、ENTER キーを押して YPAO を終了します。
- **（測定結果に問題がある場合）**カーソルキー（▽）を押して「保存 / 終了」を選んでから、ENTER キーを押します。カーソルキー（▷）を押して「キャンセル」を選んでから ENTER キーを押します。YPAO を再度実行するには、「測定開始」を選んでください。YPAO を終了するには、「終了」を選んでください。

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。エラーメッセージは、テレビ画面 / 前面ディスプレイのどちらでも確認や操作が行えます。



テレビ画面



前面ディスプレイ

■ YPAO の終了手順

1. エラーメッセージの内容を確認し、ENTER を押す。
2. カーソルキー（▷）を押して、次の選択から「終了（Exit）」を選び、ENTER を押す。
   選択：続行（Proceed）（E-5、E-9 のみ）、再測定（Retry）、終了（Exit）
3. カーソルキー（▽）を押して、次の選択から「終了（Exit）」を選び、ENTER を押す。
   選択：測定開始（Start）、終了（Exit）
4. YPAO 用マイクを取り外す。

□ エラーメッセージの原因と対策

エラーメッセージ	原因	対策
E-1：フロント SP（E-1:NO FRNT SP）	フロントスピーカーを検出できない。	「YPAO の終了手順」にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。問題を解決してから、本機の電源を入れ、YPAO を再度実行してください。
E-2：サラウンド SP（E-2:NO SUR SP）	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
E-5：雑音大（E-5:NOISY）	雑音が大きいため測定できない。	最適な測定結果を得るには、お部屋を静かに保ち、「YPAO の終了手順」の手順 2 で「再測定（Retry）」を選んで、YPAO を再度実行します。「続行（Proceed）」を選んだ場合は、測定を続行できますが、正確な測定結果が得られない場合があります。 「再測定（Retry）」、または「終了（Exit）」を選んで、初めから再測定することをおすすめします。
E-7：マイク未接続（E-7:NO MIC）	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、「YPAO の終了手順」の手順 2 で「再測定（Retry）」を選んで、再測定してください。
E-8：信号入力なし（E-8:NO SIGNAL）	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、「YPAO の終了手順」の手順 2 で「再測定（Retry）」を選んで、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください（91 ページ）。
E-9：測定キャンセル（E-9:CANCEL）	測定が中断された。	測定を続行するには、「YPAO の終了手順」の手順 2 で、「続行（Proceed）」を選びます。再測定するには、「再測定（Retry）」を選びます。
E-10：内部エラー（E-10:INTERNAL）	内部エラーが発生した。	「YPAO の終了手順」で YPAO を終了してから、本機の電源を入れなおして、YPAO を再度実行します。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください（91 ページ）。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、測定結果を保存できます。ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



テレビ画面

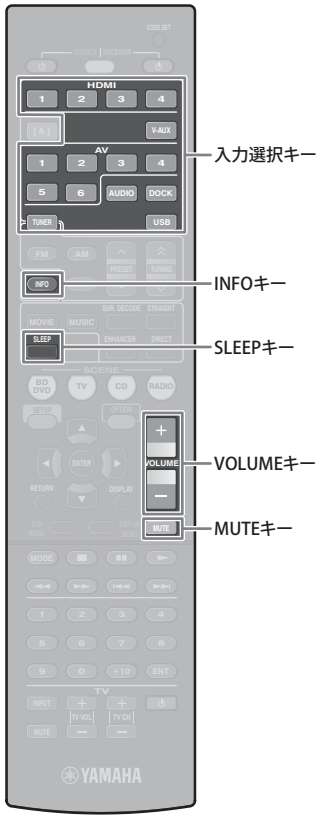
問題があるスピーカーが点滅します。



前面ディスプレイ

□ 警告メッセージの原因と対策

警告メッセージ	原因	対策
W-1：SP 接続逆相 **（W-1:PHASE）**	スピーカーの極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。	①「結線確認」（30 ページ）で、問題のあるスピーカー（赤枠で囲まれたスピーカー）を確認する。 ② 該当のスピーカーの接続を確認する。 ③ RETURN を押して、前の画面に戻る。 ④ カーソルキー（▽）を押して、「保存 / 終了」を選び ENTER を押す。 ⑤ **（問題がある場合）**：「終了（Exit）」を選び、ENTER を押す。 **（問題がない場合）**：「保存（Save）」を選び、ENTER を押す。 ⑥ YPAO 用マイクを抜いて、YPAO を終了する。 ⑦ **（問題がある場合）** 本機の電源を切り、スピーカーを再接続してから、YPAO を再度実行する。 意図的に極性を逆にしたスピーカーを使用している場合は、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。
W-2：距離補正限界 **（W-2:DISTANCE）**	スピーカーと視聴位置の距離が離れすぎているため、正確に補正できない。	①「距離補正」（30 ページ）で、問題のあるスピーカー（赤枠で囲まれたスピーカー）を確認する。 ② 該当のスピーカーの接続を確認する。 ③ RETURN を押して、前の画面に戻る。 ④ カーソルキー（▽）を押して、「保存 / 終了」を選び ENTER を押す。 ⑤ **（問題がある場合）**：「終了（Exit）」を選び、ENTER を押す。 **（問題がない場合）**：「保存（Save）」を選び、ENTER を押す。 ⑥ YPAO 用マイクを抜いて、YPAO を終了する。 ⑦ **（問題がある場合）** 本機の電源を切って、スピーカーを配置しなおしてから、それから YPAO を再度実行する。
W-3：音量補正限界 **（W-3:LEVEL）**	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	①「音量調整」（30 ページ）で、問題のあるスピーカー（赤枠で囲まれたスピーカー）を確認する。 ② 該当のスピーカーの接続を確認する。 ③ RETURN を押して、前の画面に戻る。 ④ カーソルキー（▽）を押して、「保存 / 終了」を選び ENTER を押す。 ⑤ **（問題がある場合）**：「終了（Exit）」を選び、ENTER を押す。 **（問題がない場合）**：「保存（Save）」を選び、ENTER を押す。 ⑥ YPAO 用マイクを抜いて、YPAO を終了する。 ⑦ **（問題がある場合）** 本機の電源を切り、スピーカーの配置を調整してから YPAO を再度実行する。



再生する

再生の基本操作

1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。

3 再生機器から出力される映像信号（HDMI、コンポーネントビデオ信号など）に合わせて、テレビの入力設定を切り替える。

4 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

外部機器の再生方法については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

FM/AM ラジオの選局、iPod、Bluetooth 機器または USB 機器の再生については、以下のページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（39 ページ）
- iPod の曲を再生する（42 ページ）
- Bluetooth 機器の曲を再生する（49 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（51 ページ）

5 VOLUME キーで音量を調節する。

- MUTE キーで消音します。再び押すと消音が解除されます。
- オプションメニュー（56 ページ）、または前面パネルの TONE CONTROL キー（10 ページ）で高音 / 低音を調整できます。
- 入力ごとの音量の違いを補正するには、オプションメニューの「再生レベル補正」で数値を調整してください（56 ページ）。

スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、自動で本機がスタンバイになるように設定できます（スリープタイマー）。SLEEP キーを繰り返し押すと、スタンバイまでの時間を指定できます。

120 min. → 90 min. → 60 min. → 30 min. → Off

- スリープタイマーが機能しているときは、前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。

前面ディスプレイに表示される情報を切り替える

1 リモコンまたは前面の INFO キーを繰り返し押す。

本機の前面ディスプレイに表示する情報（選択中の入力名、音場プログラム、サラウンドデコーダー、FM/AM チューナーの周波数など）が切り替わります。

□ 入力ごとに表示される情報

選択している入力に応じて、以下の情報が表示されます。

TUNER、DOCK（有線接続した iPod）、USB 以外の入力を選択しているとき

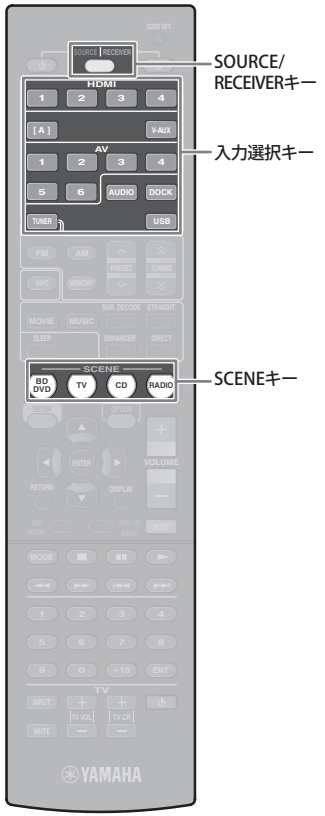
Input（入力名）→ DSP Program（音場プログラム）→ Audio Decoder（サラウンドデコーダー）

TUNER を選択しているとき

Frequency（周波数）→ DSP Program（音場プログラム）→ Audio Decoder（サラウンドデコーダー）

DOCK（有線接続した iPod）または USB を選択しているとき

Song（曲名）→ Artist（アーティスト名）→ Album（アルバムタイトル）→ DSP Program（音場プログラム）→ Audio Decoder（サラウンドデコーダー）



入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム / デコーダー、ミュージックエンハンサーなど）をワンタッチで選択できます。

1 **SCENE キーを押す。**

該当 SCENE キーに登録されている内容が呼び出されます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

各 SCENE キーの登録内容（初期値）は以下のとおりです。

SCENE キー	入力	音場プログラム / デコーダー（35 ページ）	ミュージックエンハンサー（38 ページ）	シーン連動（68 ページ）
BD/DVD	HDMI1	STRAIGHT	Off	On
TV	AV4	STRAIGHT	On	On
CD	AV3	STRAIGHT	Off	Off
RADIO	TUNER	5ch Stereo	On	Off

本機 / 外部機器両方の HDMI コントロールを有効にして、さらにセットアップメニューの「シーン連動」を「オン」にすると、シーンを切り替えたときに外部機器が次のように連動することがあります。

- （テレビの場合）電源が入ります。
- （テレビの場合）本機を接続した映像入力に切り替わります。
- （外部機器の場合）再生を開始します。

HDMI コントロールによる連動に対応している機器については、下記ウェブサイトでご確認ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

- シーン連動機能の有効 / 無効は、シーンごとに設定できます。詳しくは、セットアップメニューの「シーン連動」（68 ページ）をご覧ください。

シーン機能の登録内容を変更する

1 **以下の操作を行って、SCENE キーに登録したい状態を呼び出す。**

- 入力を選ぶ（33 ページ）
- 音場プログラムを選ぶ（35 ページ）
- ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にする（38 ページ）
- 必要に応じてシーン連動設定を有効 / 無効にする（68 ページ）

2 **前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE キーを押し続ける。**

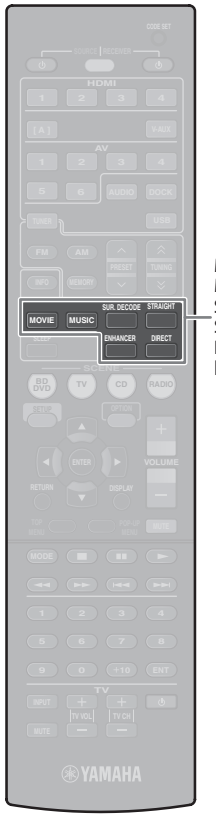


各シーンの入力を変更した場合、リモコン側の各 SCENE キーも設定変更する必要があります。リモコン側を設定変更する方法は、手順 3 をご覧ください。

3 **（必要な場合）該当の SCENE キーを押しながら入力選択キーを 3 秒以上押し続ける。**

設定が成功すると、SOURCE/RECEIVER が 2 度点滅します。

- 本機のリモコンで外部機器を操作するために、該当するリモコンコードを入力選択キーに登録します。リモコンコードの登録については、「再生機器のリモコンコードを登録する」（73 ページ）をご覧ください。



好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（36 ページ）

MOVIE キーを繰り返し押す。

音楽に適した音場プログラムまたはステレオ再生を選ぶ（36 ページ）

MUSIC キーを繰り返し押す。

サラウンドデコーダーを選ぶ（37 ページ）

SUR. DECODE キーを繰り返し押す。

ストレートデコードに切り替える（38 ページ）

STRAIGHT キーを押す。押すたびに有効 / 無効が切り替わります。

ダイレクト再生に切り替える（38 ページ）

DIRECT キーを押す。押すたびに有効 / 無効が切り替わります。

ミュージックエンハンサーを有効にする（38 ページ）

ENHANCER キーを押す。押すたびに有効 / 無効が切り替わります。ミュージックエンハンサーは、オプションメニューでも有効 / 無効にできます（56 ページ）。

- セットアップメニューの「DSP」（63 ページ）で、音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定を変更できます。
- 音場プログラムの選択は入力ごとに適用されます。
- DTS Express またはサンプリング周波数が 96kHz を超える音声の再生時は、自動的にストレートデコード（38 ページ）に切り替わります。
- 前面ディスプレイのスピーカー表示（11 ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。

音場効果を楽しむ（シネマ DSP）

CINEMA DSP

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。

音場プログラムの種類　「CINEMA DSP」が点灯



音場プログラム

!

- **DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio の音声再生時は、通常の DTS フォーマットでデコードされます。**

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

□ MOVIE（ムービー）

Standard（スタンダード）	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle（スペクタクル）	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi（サイファイ）	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure（アドベンチャー）	アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama（ドラマ）	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie（モノムービー）	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。拡がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。

□ ENTERTAINMENT（エンターテイメント）

Sports（スポーツ）	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり臨場感を体感できます。
Action Game（アクションゲーム）	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、まるでゲームの中にいるような感覚が体感できます。このプログラムはミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game（ロールプレイングゲーム）	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。バックミュージックや効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。このプログラムはミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。
Music Video（ミュージックビデオ）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

■ 音楽に適した音場プログラム / ステレオ再生（MUSIC）

ミュージック CD の再生など、音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。
ステレオ再生も選べます。

□ CLASSICAL（クラシカル）

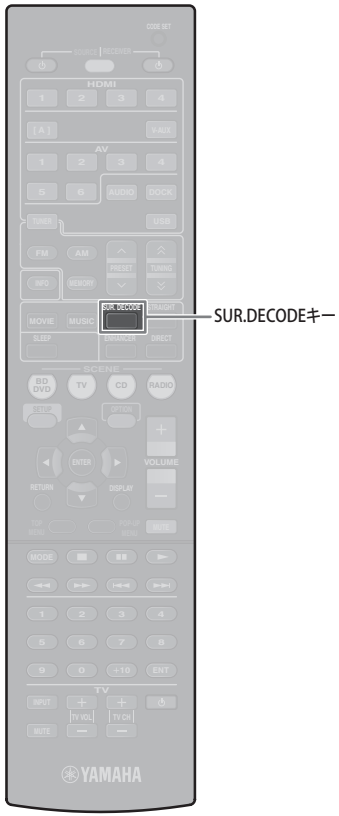
Hall in Munich（ミュンヘン）	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna（ウィーン）	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

□ LIVE/CLUB（ライブ / クラブ）

Cellar Club（セラークラブ）	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre（ロキシーシアター）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line（ボトムライン）	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

□ STEREO（ステレオ）

2ch Stereo（2ch ステレオ）	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
5ch Stereo（5ch ステレオ）	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 5 つのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。



■ 立体的な音場を楽しむ（シネマ DSP 3D）

シネマ DSP 3D を使うと、本機はフロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを使って高さ方向の音場を再現する仮想プレゼンススピーカーを構築し、立体的な音の空間を創り出します。
以下の状態で音場プログラム（2ch Stereo、5ch Stereo 以外）を選ぶと、シネマ DSP 3D が機能します。

- セットアップメニューの「センター」と「サラウンド」が、「大」または「小」に設定されている（60 ページ）。
- セットアップメニューの「シネマ DSP 3D モード」が「オン」に設定されている（63 ページ）。

「CINEMA DSP 3D」が点灯



!

- **ヘッドホン接続時は、サイレントシネマが有効になります（38 ページ）。**

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム（2ch Stereo、5ch Stereo 以外）を選ぶと、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創りだします。

!

- **ヘッドホン接続時は、サイレントシネマが有効になります（38 ページ）。**

マルチチャンネル音声を楽しむ（サラウンドデコーダー）

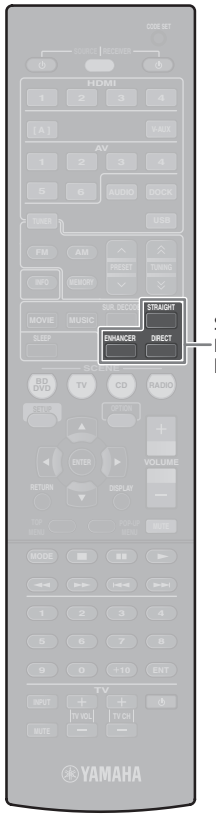
サラウンドデコーダーを使うと、入力された音声を最大 5.1 チャンネルで再生できます。
詳しくは「用語 / 技術解説」（84 ページ）をご覧ください。

1 SUR.DECODE キーでサラウンドデコーダーを選ぶ。

キーを押すたびにデコーダーが切り替わります。



DD Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DD PLII Movie	Dolby Pro Logic II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
DD PLII Music	Dolby Pro Logic II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
DD PLII Game	Dolby Pro Logic II デコーダーです。ゲームに適しています。
Neo：6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。
Neo：6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。



STRAIGHTキー
ENHANCERキー
DIRECTキー

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコード）

ストレートデコードを使うと、入力ソースに含まれている各チャンネルの音声が各スピーカーからそのまま出力されます。CD などの 2 チャンネルソースの場合は、フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、適切なデコーダーを使って音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 STRAIGHT キーを押す。

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効 / 無効になります。



原音に忠実な音質で再生する（ダイレクト再生）

ダイレクト再生を使うと、本来再生に必要な機能以外の回路（前面ディスプレイやシネマ DSP など）を停止することでノイズの混入を防ぎ、原音に忠実な音質で再生できます。

1 DIRECT キーを押す。

キーを押すたびに、ダイレクト再生が有効 / 無効になります。



- ダイレクト再生時は、以下の制限があります。
  - 音場プログラムの選択不可
  - トーンコントロールの調整不可
  - オプションメニュー、セットアップメニューの操作不可
  - ノイズ軽減のため前面ディスプレイが暗くなる（操作がない場合）

圧縮音源をダイナミックに再生する（ミュージックエンハンサー）

compressed music ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

1 ENHANCER キーを押す。

キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。

ミュージックエンハンサー機能時に点灯



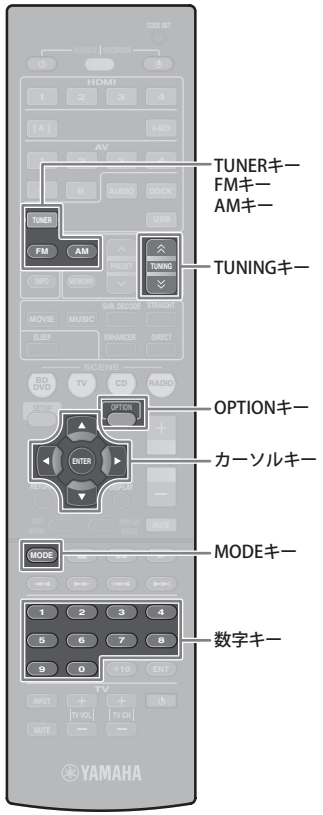
- ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
  - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
  - HD オーディオ音声

- オプションメニューでも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効に設定することができます （56 ページ）。

ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ）

SILENT CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局をするには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。

- ラジオを視聴する前にアンテナの接続をしてください（27 ページ）。
- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 FM キーまたは AM キーで FM/AM を切り替える。

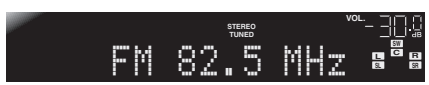


3 以下のキーで選局する。

TUNING キー　周波数を切り替えます。
約 1 秒押し続けると、放送局を自動でサーチします。

数字キー　周波数を直接入力します（例：82.5MHz を選ぶ場合は「8」「2」「5」と入力します）。

- 受信範囲外の周波数を入力した場合は、「Wrong Station!」と表示されます。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

■ 信号が弱い FM ラジオ局を受信する

FM ラジオを安定して受信できない場合は、ステレオ受信からモノラル受信に切り替えると、受信できる場合があります。

1 MODE キーを押す。

キーを押すたびに、モノラル／ステレオが切り替わります。



お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット）

最大 40 局のラジオ局を登録できます。登録したラジオ局は、プリセット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ラジオ局を自動で登録する

信号の強い FM ラジオ局を最大 40 局まで自動で登録します（オートプリセット）。

- AM ラジオ局は自動で登録できません。手動で登録してください（40 ページ）。

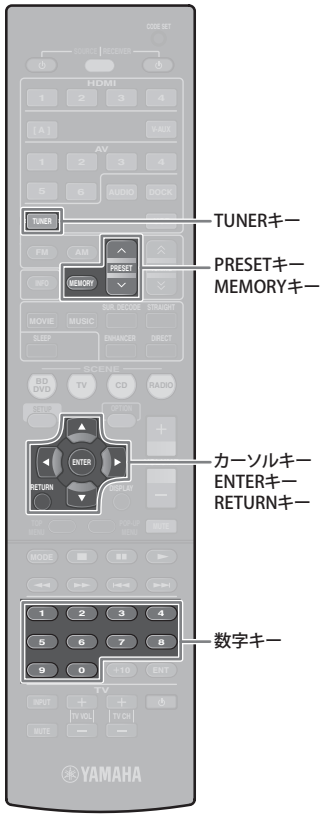
1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。



3 カーソルキー（△/▽）を繰り返し押して「Auto Preset」を選ぶ。





4 ENTER キーを押す。



5 （必要な場合）PRESET キーまたはカーソルキーを押してオートプリセットを開始するプリセット番号を指定する。

プリセット番号を指定してから約 5 秒後にオートプリセットが始まります。
プリセット番号を指定しない場合は、「READY」と表示されてから約 5 秒後にオートプリセットが始まります。

プリセット番号の指定中



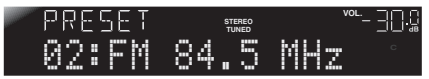
選択中のプリセット番号

- すぐにオートプリセットを開始したい場合は、ENTER キーを押してください。
- 登録を中止したい場合は、RETURN キーを押してください。

オートプリセット中



登録中



オートプリセット完了時



登録が完了すると、自動でオプションメニューを終了します。

■ ラジオ局を手動で登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します。

1 「周波数を指定して選局する」（39 ページ）の手順で、登録したいラジオ局を受信する。

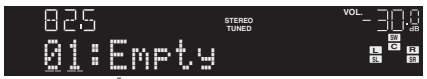
2 MEMORY キーを 2 秒以上押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。



登録先のプリセット番号

- 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーまたは数字キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数

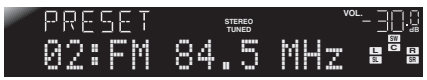
■ 登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

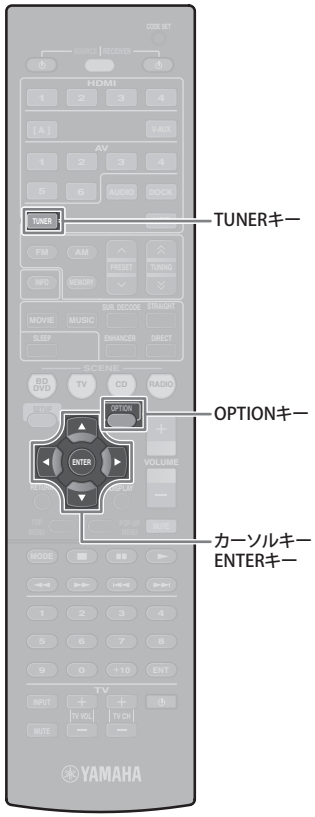
1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 PRESET キーでプリセット局を選ぶ。

PRESET キーを一度押したあと、数字キーでプリセット番号（01 ～ 40）を直接入力することもできます。



- ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
- 無効なプリセット番号を入力した場合は、「Wrong Num.」と表示されます。
- 登録していないプリセット番号を入力した場合は、「Empty」と表示されます。



■ 登録したラジオ局を登録解除する

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）を登録解除します。

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。



3 カーソルキー（△ / ▽）を繰り返し押して「Clear Preset」を選ぶ。



4 ENTER キーを押す。



5 カーソルキー（△ / ▽）で登録解除したいプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。

複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。

6 終了するには、OPTION キーを押す。

映像とラジオの音声を組み合わせる

ラジオを視聴しながら、テレビ画面にお好みの映像を出力できます。

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替えて、視聴したいラジオ局を選局する。

2 OPTION キーを押す。



3 カーソルキー（△ / ▽）を繰り返し押して「Video Out」を選ぶ。



4 ENTER キーを押す。



5 カーソルキー（◁ / ▷）でお好みの映像入力を選ぶ。



選択可能な映像入力

HDMI1 ～ 4	HDMI 1-4 端子から入力された映像信号を出力します。
AV1 ～ 6	AV1-6 端子から入力された映像信号を出力します。
V-AUX	前面の VIDEO AUX 端子から入力された映像信号を出力します。
Off（初期値）	外部機器から入力した映像信号を出力しません。

6 終了するには、OPTION キーを押す。

- 映像を視聴するには、設定に合わせてテレビ側の入力を切り替える必要があります。

iPod の曲を再生する

iPod に付属の USB ケーブル、オプションのヤマハ製 iPod ドック（YDS-12 など）、またはヤマハ製 iPod ワイヤレスシステム（YID-W10）を使って iPod を接続し、iPod の曲を本機で再生します。

!

- **本書は iPod と iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod と iPhone の両方を意味します。**
- **iPod の種類やソフトウェアのバージョン、または iPod ドックの種類により、一部の機能が使えない場合があります。**

接続方法による機能の違い

	iPod 付属の USB ケーブル	ヤマハ製 iPod ドック（YDS-12 など）	ヤマハ製 iPod ワイヤレスシステム（YID-W10）
音声出力	○	○	○
映像出力	×	○ *	×
リモコンを使った操作	○	○	×
iPod 本体の操作	○	○	○
テレビ画面を使った操作	○	○	×
充電	○	○	○
スタンバイ時充電	×	○	○
対応する iPod	iPod touch iPod nano（第 2 ～ 6 世代） iPod classic iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone	iPod touch iPod nano iPod classic iPod with video iPod with color display iPod with click wheel iPod mini iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone	iPod touch iPod nano iPod classic iPod with video iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone

* 本機背面の MONITOR OUT（VIDEO）端子から映像信号が出力されます。

iPod を接続する

■ USB ケーブルを使う

iPod に付属の USB ケーブルを使って、iPod を本機に接続します。

特長

- 音声をデジタル信号のまま伝送するため、音質劣化の少ない、クリアな音が楽しめます。
- 本機のリモコンで iPod を操作できます。
- テレビ画面に iPod のコンテンツ一覧や曲の再生情報を表示できます。

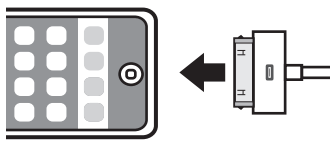
対応する iPod

iPod touch、iPod nano（第 2 ～ 6 世代）、iPod classic、iPhone4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

接続方法

次の手順で接続します。

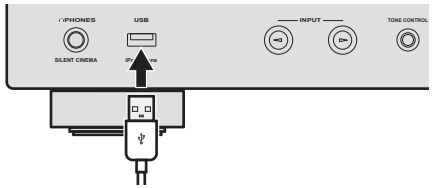
1 **iPod に付属の USB ケーブルを iPod に接続する。**



次ページにつづく



2 USB ケーブルを前面の USB 端子に接続する。





3 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

4 iPod のコンテンツを選び、再生を始める。

- テレビ画面を使った操作（45 ページ）
- iPod 本体を使った操作（48 ページ）

- iPod に付属の USB ケーブルでは映像を出力できません。

■ iPod ドックを使う

オプションのヤマハ製 iPod ドックを使って、iPod を本機に接続します。

特長

- iPod 内の曲だけでなく、映像も再生できます。
- 本機のリモコンで iPod を操作できます。
- テレビ画面に iPod のコンテンツ一覧や曲の再生情報を表示できます。

対応する iPod

iPod touch、iPod nano、iPod classic、iPod with video、iPod with color display、iPod with click wheel、iPod mini、iPhone4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

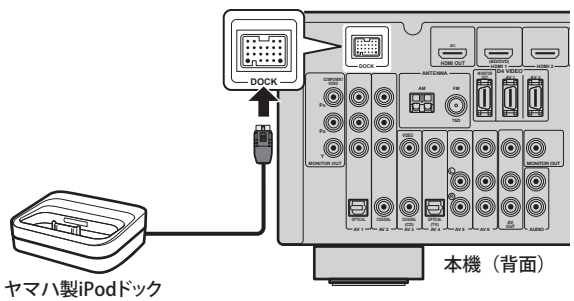
接続方法

次の手順で接続します。iPod ドックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- iPhone を接続する場合は、YDS-12 をお使いください。

1 本機の電源がスタンバイの状態で、iPod ドックを DOCK 端子に接続する。

iPod ドックはなるべく本機から離して配置してください。



2 iPod を iPod ドックに接続して、本機の電源を入れる。



3 DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

4 iPod のコンテンツを選び、再生を始める。

- テレビ画面を使った操作（45 ページ）
- iPod 本体を使った操作（48 ページ）

- iPod を iPod ドックに接続すると、iPod が充電されます。オプションメニューの「スタンバイ時充電」（57 ページ）で、本機がスタンバイでも iPod を充電するかどうかを設定できます。



■ iPod ワイヤレスシステムを使う

オプションのヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステムを使って、iPod を本機に接続します。

特長

- 音質を劣化させることなく、リアルタイムで非圧縮音声を伝送するヤマハ「AirWired」技術により、iPod と本機をワイヤレスで接続し、音声を再生できます。
- iPod の音量操作や再生操作により、本機の音量や電源の入 / 切を連動させることができます。

対応する iPod

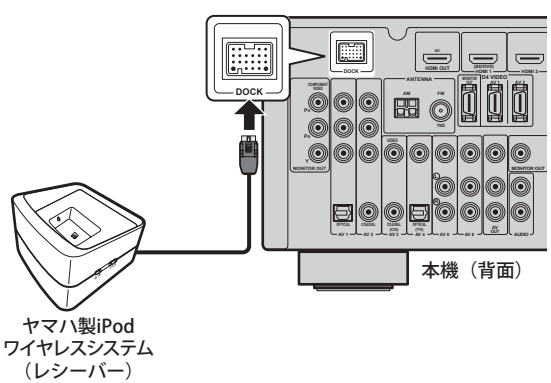
iPod touch、iPod nano、iPod classic、iPod with video、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

接続方法

次の手順で接続します。本機との接続が完了すると、iPod 本体で再生操作ができるようになります。iPod ワイヤレスシステムの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 電源コードのプラグをコンセントから抜いた状態で、iPod ワイヤレスシステム（レシーバー）を DOCK 端子に接続する。

iPod ワイヤレスシステム（レシーバー）はなるべく本機から離して配置してください。



2 電源コードのプラグをコンセントに接続する。

3 iPod を iPod ワイヤレスシステム（トランスミッター）に接続する。

前面ディスプレイが次の表示に変わるまでしばらくお待ちください。



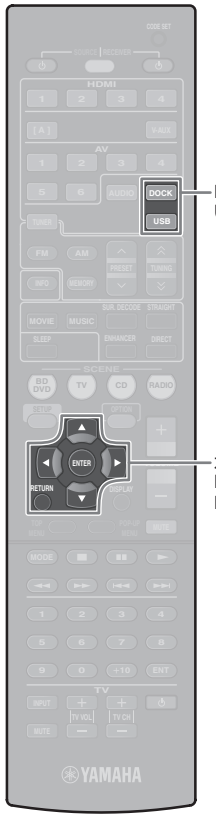
4 iPod でコンテンツを選び、再生を始める。

自動的に本機の電源が入り、入力が「DOCK」に切り替わります。

- テレビ画面に iPod の映像やコンテンツ一覧を表示させることはできません。
- オプションメニューの「iPod 操作連動」（57 ページ）で、iPod の操作と本機（電源の入 / 切、入力選択、音量調節）を連動させるかどうかを設定できます。連動機能を無効にしている場合は、手動で本機の電源や入力を切り替えてください。
- iPod を接続したトランスミッターをレシーバーに置くと、iPod が充電されます。オプションメニューの「スタンバイ時充電」（57 ページ）で、本機がスタンバイでも iPod を充電するかどうかを設定できます。

注意

iPod 側で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iPod を iPod ワイヤレスシステム（トランスミッター）から外してください。セットアップメニューの「音量の上限」（63 ページ）で音量の上限値を設定しておくと、不慮の大音量を防止できます。



テレビ画面を見ながら iPod を操作する

iPod に付属の USB ケーブルや iPod ドックを使って接続している場合は、テレビ画面を見ながら iPod を操作できます。

- テレビ画面を見ながら iPod を操作するには、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続して、テレビの入力を本機の HDMI OUT 端子からの映像に切り替えてください。
- iPod ワイヤレスシステムを使って iPod を接続している場合、テレビ画面を見ながら操作できません。iPod 本体を直接操作してください。

1 iPod を接続した入力に切り替える。

USB ケーブルで接続した場合：

USB キーで入力を「USB」に切り替える。

iPod ドックで接続した場合：

DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。
画面は「USB」に切り替えた場合の例です。



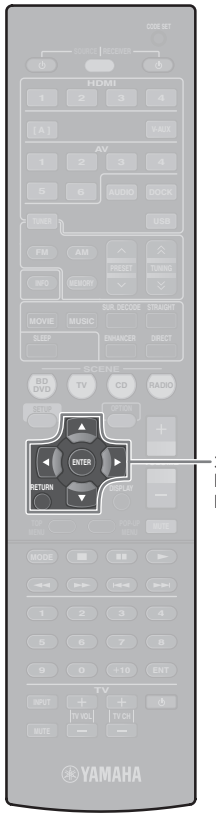
- テレビ画面に「デバイスがありません」と表示される場合は、iPod が正しく接続されているか確認してください。

2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

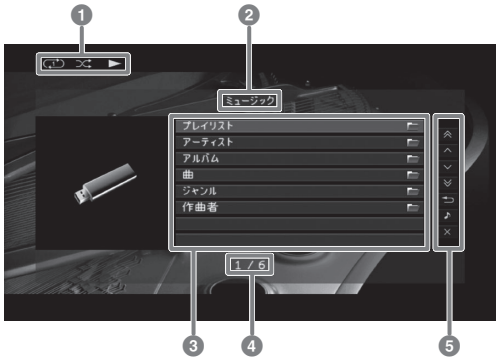
曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ上の階層に戻るには、RETURN キーまたはカーソルキー（◁）を押します。
- （iPod ドック使用時）iPod の映像を再生するには、本機の MONITOR OUT (VIDEO) 端子をテレビに接続してください。再生する際は、テレビの入力設定をビデオ入力に切り替えてください。
- （iPod ドック使用時）iPod の映像の再生中に、ブラウズ画面または再生画面を表示するには、テレビ側を本機と接続した HDMI 入力に切り替えてください。



■ ブラウズ画面



❶ 再生アイコン
シャッフル再生 / リピート再生の設定（47 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニューアイコン
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー		説明
10 ページ上へ	⏫	10 ページ上のリストに切り替えます。
1 ページ上へ	⌃	1 ページ上のリストに切り替えます。
1 ページ下へ	⌄	1 ページ下のリストに切り替えます。
10 ページ下へ	⏬	10 ページ下のリストに切り替えます。
戻る	⮌	1 つ上の階層に戻ります。
再生画面へ	♪	再生画面に切り替えます。再生中のみ有効です。
スクリーンを閉じる	✕	ブラウズ画面を閉じます。ブラウズ画面を閉じた後、ENTER キーまたは RETURN キーを押すと、曲が再生中の場合は再生画面に、停止中の場合はブラウズ画面に戻ります。

■ 再生画面



❶ 再生アイコン
シャッフル再生 / リピート再生の設定（47 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

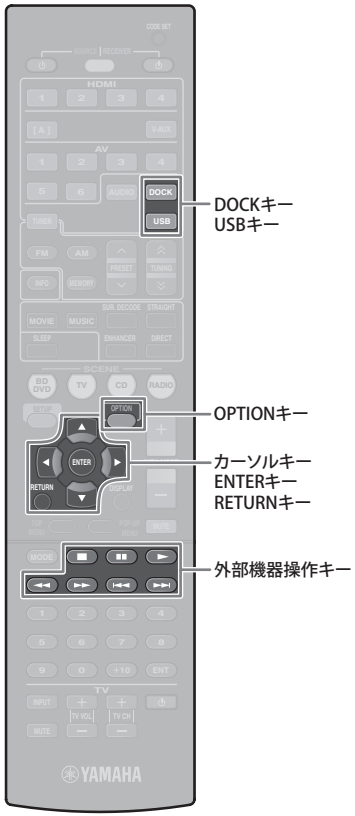
❷ 曲情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間 / 残り時間が表示されます。カーソルキー（△ / ▽）でスクロールする項目を変更できます。

❸ アルバムイメージ

❹ 操作メニューアイコン
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー		説明
再生操作	⏯	選択中の曲を再生または一時停止します。
	⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
	⏭	次の曲にスキップします。
ブラウズ画面へ	☰	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	✕	再生画面を閉じます。再生画面を閉じた後、ENTER キーまたは RETURN キーを押すと、再生画面に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キーでも iPod を操作できます（47 ページ）。
- 前面ディスプレイを見ながら iPod を操作しているときに前面ディスプレイに「View ON SCREEN」と表示された場合は、カーソルキー（◁）を押すと操作画面に戻ります。



■ リモコンで操作する

再生画面の「操作メニューアイコン」を使わずに、直接リモコンを使って iPod を操作できます。

使用できるリモコンキー		説明
外部機器操作キー	►	選択中の曲を再生します。
	▮▮	再生を一時停止します。
	■	再生を停止します。
	◄◄	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
	►►	押し続けている間、曲を早送りします。
	⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
	⏭	次の曲にスキップします。

■ シャッフル再生 / リピート再生

iPod のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

1 入力に「USB」または「DOCK」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。



2 カーソルキー（△/▽）を繰り返し押して「シャッフル」（Shuffle）または「リピート」（Repeat）を選ぶ。



3 ENTER キーを押す。



• メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

4 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。



項目	設定値		説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）		シャッフル再生を無効にする。
	曲（Songs）		曲をランダムに再生する。再生画面（46ページ）にシャッフルアイコンが表示されます。
	アルバム（Albums）		アルバム単位でランダムに再生する。再生画面（46 ページ）にシャッフルアイコンが表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）		リピート再生を無効にする。
	1 曲（One）		現在の曲を繰り返し再生する。再生画面（46 ページ）にリピート（1 曲）アイコンが表示されます。
	すべて（All）		現在のディレクトリー内の曲を繰り返し再生する。再生画面（46 ページ）にリピート（すべて）アイコンが表示されます。

5 終了するには、OPTION キーを押す。



iPod 本体で操作する

iPod 本体を操作してコンテンツを再生します。

1 **MODE キーを押す。**

テレビの表示が消えて、iPod で操作可能になります。
テレビの表示（ブラウズ画面）に戻すには、もう一度 MODE キーを押します。

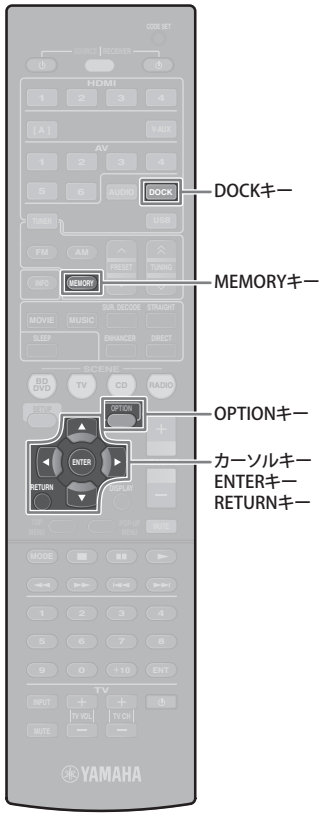
2 **iPod でコンテンツを選び、再生を始める。**

iPod を使った操作方法については、お使いの iPod の操作説明書をご覧ください。

■ リモコンで操作する

再生画面の「操作メニューアイコン」を使わずに、直接リモコンを使って iPod を操作できます。

使用できるリモコンキー		説明
カーソルキー		コンテンツを選びます。
ENTER キー / カーソルキー（▷）		選択を確定します。
RETURN キー カーソルキー（◁）		1 つ前の画面に戻ります。
外部機器操作キー	► / ▮▮	選択中の曲を再生または一時停止します。
	■	再生を停止します。
	◄◄	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
	►►	押し続けている間、曲を早送りします。
	⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
	⏭	次の曲にスキップします。



Bluetooth 機器の曲を再生する

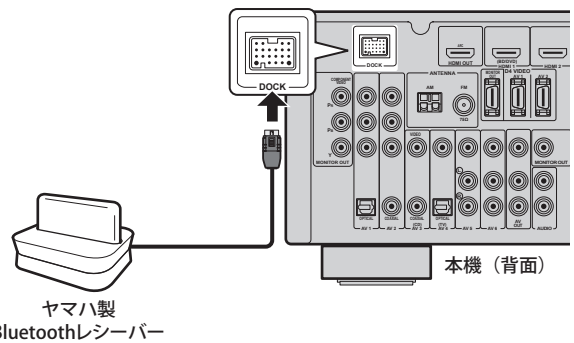
オプションのヤマハ製 Bluetooth レシーバー（YBA-10）を使って、Bluetooth 機器の曲を本機で再生します。Bluetooth レシーバーやお使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。

- お使いの Bluetooth 機器を初めて Bluetooth レシーバーに接続する場合は、ペアリング（2 つの Bluetooth 機器を組み合わせるための認証）が必要になります。一度ペアリングが完了すると、以降は接続操作を行うだけで、Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバー間の通信が確立されます。ペアリングは Bluetooth 機器ごとに必要になります。したがって、複数の Bluetooth 機器を使う場合は、Bluetooth レシーバーとのペアリングがそれぞれ必要になります。

Bluetooth レシーバーを接続する

1 本機の電源がスタンバイの状態で、Bluetooth レシーバーを DOCK 端子に接続する。

Bluetooth レシーバーはなるべく本機から離して設置してください。



2 本機の電源を入れる。

Bluetooth 機器とペアリングする

お使いの Bluetooth 機器を初めて Bluetooth レシーバーに接続する場合やペアリング設定が消去された場合は、ペアリングが必要になります。

- ヤマハ製 Bluetooth レシーバー（YBA-10）は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器をペアリングすると、もっとも長く使用されていない機器のペアリング設定が消去されます。

1 DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

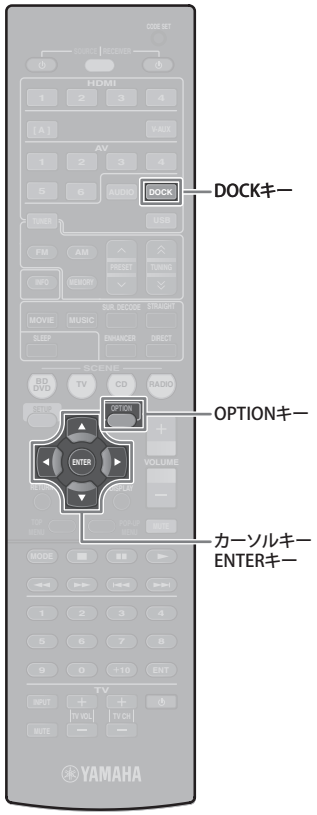
2 Bluetooth 機器の電源を入れ、ペアリングモードにする。

3 OPTION キーを押し、カーソルキーを繰り返し押して「Pairing」を選び ENTER キーを押す。

機器の検索が始まります。Bluetooth 機器が Bluetooth レシーバーを認識すると、Bluetooth 機器のデバイスリストに機器名（「YBA-10 YAMAHA」など）が表示されます。



- 検索を中止するには、RETURN キーを押します。
- 手順3の代わりに、MEMORY キーを押し続けて検索を始めることもできます。検索を中止する場合は、もう一度 MEMORY キーを押します。



4 デバイスリストからBluetoothレシーバーを選び、パスキー「0000」を入力する。

ペアリングが終わると、「Completed」と表示されます。



- Bluetooth 機器によっては、「BT connected」と表示されます。この場合、ペアリングと同時に無線接続も完了しているため、Bluetooth 機器で再生を始めるだけで、本機から音声が出力されます。

5 終了するには、OPTION キーを押す。

Bluetooth 機器と接続して再生する

ペアリングが完了してから、Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーの無線接続を行います。接続中は、Bluetooth 機器で再生を始めると本機から音声が出力されます。

- Bluetooth 機器によっては、Bluetooth 機器側の操作で自動で接続できる場合があります。この場合、以下の手順 2 ～ 3 は必要ありません。

1 DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキー（△/▽）を繰り返し押して「Connect」を選び、ENTER キーを押す。

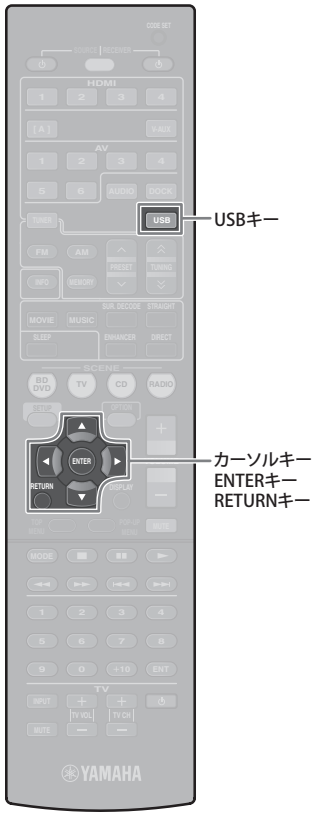
無線接続が確立されると、「BT connected」と表示されます。



- Bluetooth レシーバーとペアリングされている機器が複数ある場合、もっとも最近接続した Bluetooth 機能が有効になっている機器と自動的に接続されます。別の機器に接続されてしまう場合は、その機器の Bluetooth 機能を無効にするか、Bluetooth 機器側で接続操作をしてください。
- 「Not Found」と表示された場合、接続が確立されていません。以下の点を確認し、再度接続してください。
  - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーがペアリングされている。
  - Bluetooth 機器の電源が入っていて、Bluetooth 機能が有効になっている。
  - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーが 10 メートル以内に置かれている。

4 Bluetooth 機器で曲を再生する。

- 無線接続を切断するには、手順 3 で「Disconnect」を選びます。



USB 機器の曲を再生する

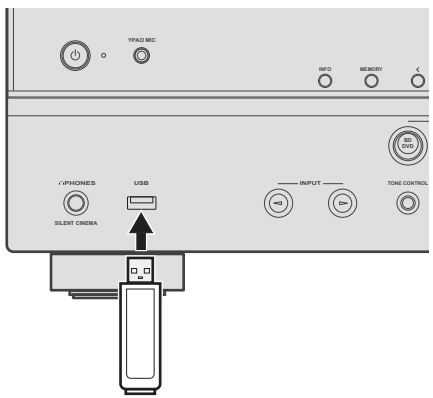
本機に USB 機器を接続すると、機器内の音声ファイル（PCM フォーマットの WAV、MP3、WMA、MPEG-4 AAC）を再生できます。

- 本機の USB 機器再生は、48kHz 以下のサンプリング周波数に対応しています。

USB 機器を接続する

本機は、USB ハードディスクドライブを除く FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの USB 機器に対応しています。お使いの USB 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 USB 機器を前面の USB 端子に接続する。



- USB 機器を差し込むときは、正しい向きになっていることを確認してください。
- iPod の接続方法は、「USB ケーブルを使う」（42 ページ）をご覧ください。
- ファイル数が多い USB 機器を接続した場合は、読み込みに時間がかかることがあります。読み込み中は前面ディスプレイとテレビ画面に「Loading...」（読み込み中です）と表示されます。

テレビ画面を見ながら操作する

テレビ画面を見ながら曲の選択や再生を行います。

- テレビ画面を見ながら USB 機器を操作するには、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続して、テレビの入力を本機の HDMI OUT 端子からの映像に変えてください。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。



- テレビ画面に「デバイスがありません」と表示される場合は、USB 機器が正しく接続されているか確認してください。

2 カーソルキーでフォルダー（ディレクトリー）または曲を選び、ENTER キーで確定する。

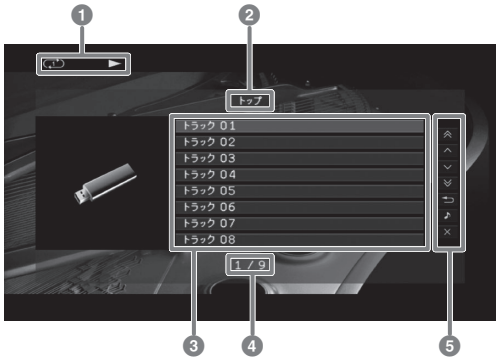
曲の再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーか、カーソルキー（◁）を押します。
- 本機が対応していない形式の音声ファイルは表示されません。



■ ブラウズ画面



❶ 再生アイコン
ランダム再生 / リピート再生の設定(53 ページ)、および再生状態(再生 / 一時停止)が表示されます。

❷ リスト名

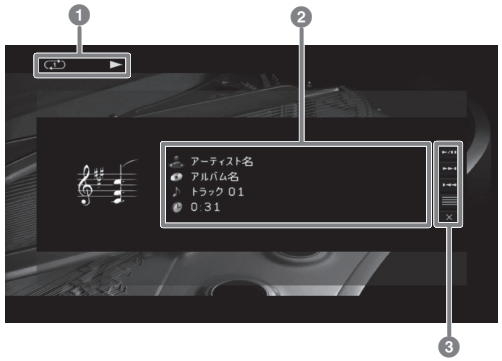
❸ 曲リスト
USB 機器の曲やフォルダー一覧が表示されます (32 文字まで)。カーソルキーで曲を選び、ENTER キーで確定します。

❹ 曲番号 / 総数

❺ 操作メニューアイコン
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー		説明
10 ページ上へ	⏫	10 ページ上のリストに切り替えます。
1 ページ上へ	⌃	1 ページ上のリストに切り替えます。
1 ページ下へ	⌄	1 ページ下のリストに切り替えます。
10 ページ下へ	⏬	10 ページ下のリストに切り替えます。
戻る	⮌	1 つ上の階層に戻ります。
再生画面へ	♪	再生画面に切り替えます。再生中のみ有効です。
スクリーンを閉じる	✕	ブラウズ画面を閉じます。ブラウズ画面を閉じた後、ENTER キーまたは RETURN キーを押すと、曲が再生中の場合は再生画面に、停止中の場合はブラウズ画面に戻ります。

■ 再生画面



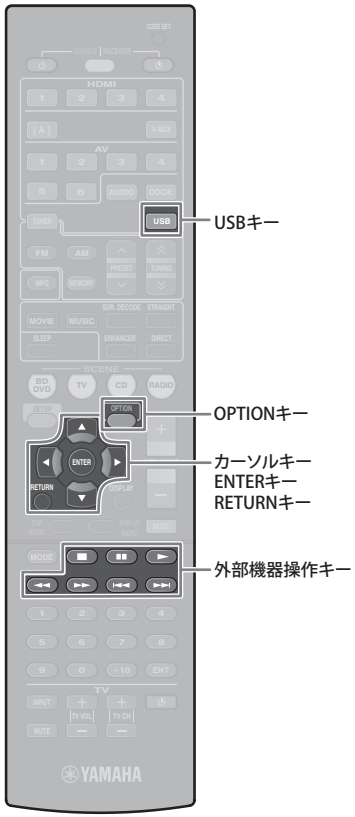
❶ 再生アイコン
ランダム再生 / リピート再生の設定(53 ページ)、および再生状態(再生 / 一時停止)が表示されます。

❷ 曲情報
ファイルに含まれるアーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。表示内に収まらない長い情報は、カーソルキーで選択すると、表示がスクロールされます。

❸ 操作メニューアイコン
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー		説明
再生操作	⏯	選択中の曲を再生または一時停止します。
	⏮	再生中の曲の先頭 (または前の曲) にスキップします。
	⏭	次の曲にスキップします。
ブラウズ画面へ	☰	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	✕	再生画面を閉じます。再生画面を閉じた後、ENTER キーまたは RETURN キーを押すと、再生画面に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キーでも USB 機器を操作できます (53 ページ)。
- 前面ディスプレイを見ながら USB 機器を操作しているときに前面ディスプレイに「View ON SCREEN」と表示された場合は、カーソルキー (◁) を押すと操作画面に戻ります。



■ リモコンで操作する

再生画面の「操作メニューアイコン」を使わずに、直接リモコンを使って USB 機器を操作できます。操作可能な内容は以下のとおりです。

使用できるリモコンキー		説明
外部機器操作キー	►	選択中の曲を再生します。
	▮▮	再生を一時停止します。
	■	再生を停止します。
	◄◄	押し続けている間、曲を巻き戻しします。
	►►	押し続けている間、曲を早送りします。
	⏮	再生中の曲の先頭（または前の曲）にスキップします。
	⏭	次の曲にスキップします。

■ リピート再生 / ランダム再生

USB 機器のリピート再生およびランダム再生を設定します。

- USB ケーブルを使って iPod を接続している場合は、リピート再生に加えてシャッフル再生も可能です（47 ページ）。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。



3 カーソルキー（△/▽）を繰り返し押して「リピート」（Repeat）を選ぶ。



4 ENTER キーを押す。



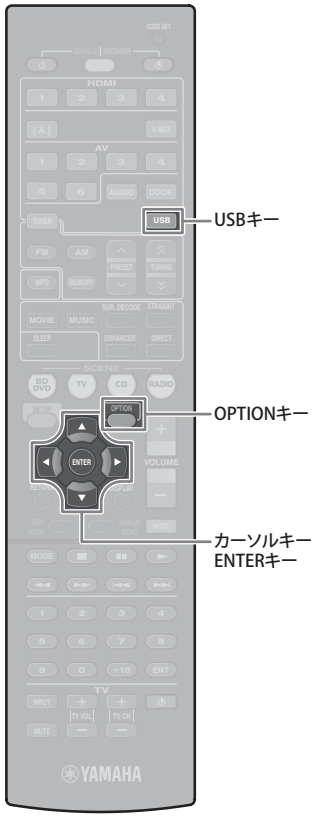
- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

5 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。



項目	設定値		説明
リピート（Repeat）	オフ（Off）		リピート再生を無効にする。
	1 曲（Single）		現在の曲を繰り返し再生する。再生画面（52 ページ）にリピート（1曲）アイコンが表示されます。
	すべて（All）		現在のフォルダー（またはディレクトリー）内の曲を繰り返し再生する。再生画面（52 ページ）にリピート（すべて）アイコンが表示されます。
	ランダム（Random）		曲をランダムに再生する。再生画面（52 ページ）にランダムアイコンが表示されます。

6 終了するには、OPTION キーを押す。



映像と USB 機器（iPod）の曲を組み合わせる

USB 機器の曲を再生しながら、テレビ画面にお好みの映像を出力できます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替えて、お好みの曲を再生する。

2 OPTION キーを押す。



3 カーソルキー（△/▽）を繰り返し押して「Video Out」を選ぶ。



4 ENTER キーを押す。



5 カーソルキー（◁/▷）でお好みの映像入力を選ぶ。



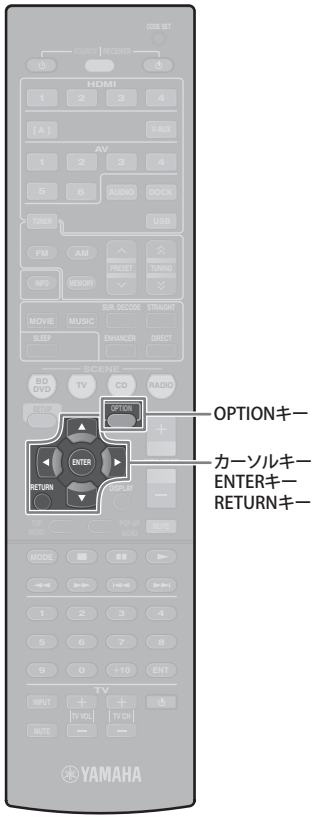
選択可能な映像入力

HDMI1 ～ 4	HDMI 1-4 端子から入力された映像信号を出力します。
AV1 ～ 6	AV1-6 端子から入力された映像信号を出力します。
V-AUX	前面の VIDEO AUX 端子から入力された映像信号を出力します。
Off（初期値）	外部機器から入力した映像信号を出力しません。

6 終了するには、OPTION キーを押す。

- テレビ画面に、ブラウズ画面または再生画面が表示されている場合は、「×」で画面を閉じます（52 ページ）。
- 「Video Out」は、USB 端子に接続した iPod にも有効です。
- 映像を視聴するには、設定に合わせてテレビ側の入力を切り替える必要があります。映像の再生中に、ブラウズ画面または再生画面を表示するには、テレビ側を本機と接続した HDMI 入力に切り替えてください。

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）



再生中のソースに合わせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

- テレビ画面を見ながらオプションメニューを操作するには、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続して、テレビの入力を本機の HDMI OUT 端子からの映像に変えてください。

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。

項目	説明	ページ
トーンコントロール（Tone Control）	高音 / 低音を調整します。	56
Adaptive DRC	音量調節に連動してダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を調節するかどうかを設定します。	56
多重モノラル音声（Dual Mono）	多重音声入力時の出力音声を設定します。	56
音声入力（Audio In）	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	25
再生レベル補正（Volume Trim）	入力間の音量差を補正します。	56
エンハンサー（Enhancer）	ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	56
信号情報（Signal Info）	音声信号や映像信号などに関する情報を表示します。	57
プリセット自動登録（Auto Preset）	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します（最大 40 局）。	39
プリセット削除（Clear Preset）	登録されているラジオ局を消去します。	41
映像選択（Video Out）	TUNER または USB 入力の音声とほかの端子の映像を組み合わせます。	41、54
リピート（Repeat）	iPod または USB 機器のリピート再生を設定します。	47、53
シャッフル（Shuffle）	iPod のシャッフル再生を設定します。	47
スタンバイ時充電（Standby Charge）	本機がスタンバイ時に iPod を充電するかどうかを設定します。	57
iPod 操作連動（Interlock）	ヤマハ製 iPod ワイヤレスシステムを使って接続した iPod の操作と本機を連動させるかどうかを設定します	57
ペアリング（Pairing）	Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーをペアリングします。	49
接続 / 切断（Connect/Disconnect）	Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーの無線接続を確立 / 解除します。	50

■ トーンコントロール（Tone Control）

フロントスピーカーから出力される音声の高音（Treble）と低音（Bass）のバランスを調整します。ヘッドホン接続時は、ヘッドホン出力の高音 / 低音を調整できます。

対象の入力

すべて（全入力に対して共通で設定されます）

選択項目

高音（Treble）、低音（Bass）

設定値

－ 6.0 dB ～＋ 6.0 dB（0.5 dB 単位）

初期値

バイパス（0.0 dB）

!

- **極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。**

本体前面のキーでも調整できます（10 ページ）

① TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選ぶ。
② PROGRAM キーで調整する。

■ Adaptive DRC

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。「オン」にすると、夜間など小音量で再生した場合でも聴きやすくなります。

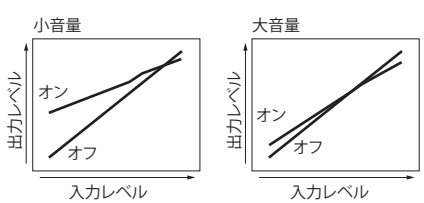
対象の入力

すべて（全入力に対して共通で設定されます）

設定値

オフ（Off）（初期値）	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。
オン（On）	ダイナミックレンジを自動的に調節する。

「オン」に設定すると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは拡がります。



■ 多重モノラル音声（Dual Mono）

地上デジタル /BS デジタル放送など、多重モノラル音声入力時に視聴する音声を選択します。

対象の入力

HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 4、（ARC 使用時にテレビ音声入力を割り当てた入力）

設定値

主＋副（All）	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。
主音声（Main）（初期値）	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声（Sub）	副音声をフロントスピーカーから出力する。

■ 再生レベル補正（Volume Trim）

入力間の音量差を補正します。入力切替時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。

対象の入力

すべて（各入力に対して個別に設定されます）

- **補正値は、選択している入力ごとに個別の設定ができます。**

設定値

－ 6.0 dB ～＋ 6.0 dB（0.5 dB 単位）

初期値

0.0 dB

■ エンハンサー（Enhancer）

ミュージックエンハンサー（38 ページ）を有効 / 無効にします。

対象の入力

すべて（各入力に対して個別に設定されます）

設定値

オフ（Off）	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン（On）	ミュージックエンハンサーを有効にする。

- **エンハンサーの有効 / 無効は、リモコンの ENHANCER キーでも設定できます。**

■ 信号情報（Signal Info）

映像と音声信号に関する情報が表示されます。

対象の入力

HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 4、（ARC 使用時にテレビ音声入力を割り当てた入力）

項目

信号方式 （FORMAT）	音声フォーマット
チャンネル （CHAN）	入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE） 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE 特殊なチャンネル構成のとき： 「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されます。 入力信号が多重モノラル音声のとき： 「1+1」と表示されます。
サンプリング （SAMPL）	アナログ信号をデジタル信号に変換する際の 1 秒あたりのサンプル数
ビットレート （B RATE）	入力信号の 1 秒あたりのデータ量
入力 （V IN）	入力している映像の信号方式
出力 （V OUT）	出力している映像の信号方式
メッセージ （V MSG）	HDMI に関するエラーメッセージ。HDMI に関するエラーが発生した場合のみ、本項目が表示されます。 HDCP エラー（HDCP Error）：接続しているテレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。お使いのテレビが HDCP に対応しているか確認してください。 デバイス数超過（Device Over）：HDMI OUT 端子に接続されている機器（デイジーチェーン接続）が制限を超えている。接続機器の数を減らしてください。

■ 前面ディスプレイの情報切り替え

カーソルキー（△ / ▽）でフロントパネルに表示する信号情報を切り替えます。



前面ディスプレイ

- テレビ画面には、すべての信号情報が表示されます。

■ スタンバイ時充電（Standby Charge）

本機がスタンバイ時に、iPod ドックや iPod ワイヤレスシステムに接続した iPod を充電するかどうかを設定します。

対象の入力

DOCK（iPod）

設定値

オン（On）（初期値）	本機がスタンバイでも iPod を充電する。
オフ（Off）	本機がスタンバイ時は充電しない。

- **iPod を USB ケーブルで接続している場合、スタンバイ時充電は使用できません。**

■ iPod 操作連動（Interlock）

iPod ワイヤレスシステムに接続した iPod の操作を本機と連動させるかどうかを設定します。

対象の入力

DOCK（iPod）

- **iPod ワイヤレスシステム接続時のみ設定できます。**

□ 電源と入力連動（Pwr&Input）

iPod の操作と本機の電源 / 入力の切り替えを連動させるかどうかを設定します。

設定値

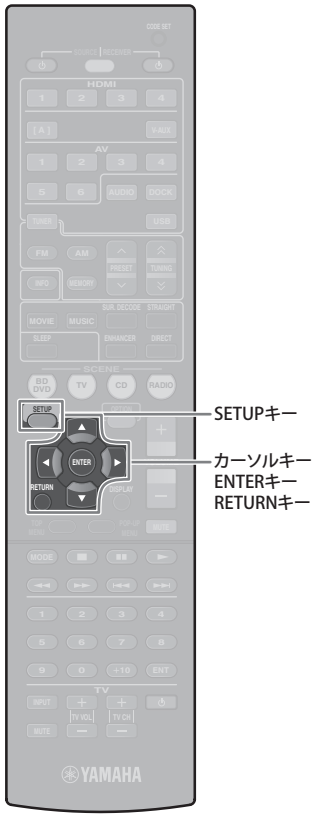
オフ（Off）	連動させない。
オン（On）（初期値）	連動させる。iPod で再生を始めると、本機の電源が入り、入力が「DOCK」に切り替わります。再生を停止してしばらくすると、本機の電源がスタンバイになります。

□ 音量連動（Volume）

iPod の操作と本機の音量調節を連動させるかどうかを設定します。

設定値

オフ（Off）	連動させない。
オン（On）（初期値）	連動させる。iPod で音量を調節すると、本機の音量も調節されます。



設定する

本機の設定を変更する（セットアップメニュー）

テレビ画面に表示されるセットアップメニューを操作して、入力の設定を変更します。

- セットアップメニューを操作するには、本機とお使いのテレビを HDMI ケーブルで接続する必要があります。HDMI 以外のケーブルで接続している場合は、HDMI ケーブルを使ってテレビと接続してください。

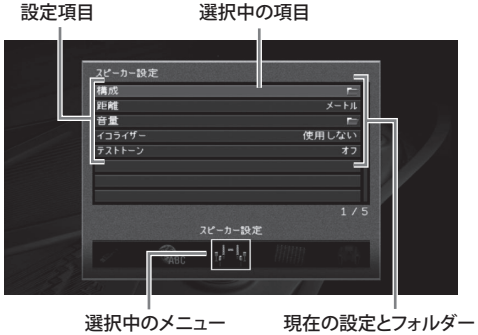
1 SETUP キーを押す。

お使いのテレビが HDMI コントロールに対応している場合、本機 / 外部機器両方の HDMI コントロールを有効にしてリモコンの SETUP キーを押すと、テレビが次のように連動することがあります。

・電源が入ります。
・映像入力が、本機を接続した HDMI 入力に切り替わります。
・セットアップメニューが表示されます。

対応する外部機器は、下記ウェブサイトでご確認ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

2 カーソルキー（◁/▷）で設定したいメニューを選ぶ。



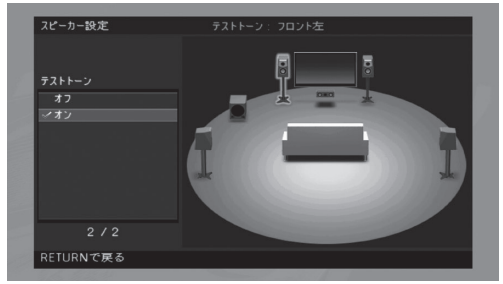
- 画面下段のメニューに白枠が表示されているときのみメニューの選択が行えます。設定中に他のメニューを選ぶには、RETURN キーを何度か押してカーソルを表示させてください。
- セットアップメニューで設定可能な項目は、「セットアップメニュー一覧」（59 ページ）をご覧ください。

3 カーソルキー（△/▽）で設定項目（59 ページ）を選び、ENTER キーを押す。



- フォルダーアイコン（🗀）がある項目は、ENTER キーを押すと詳細設定が行えます。RETURN キーを押すと、詳細設定から元の表示に戻ります。

4 カーソルキー（△/▽/◁/▷）で設定値を選び、ENTER キーを押す。



- 操作可能な内容は、設定項目ごとに異なります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

5 終了するには、SETUP キーを押す。

セットアップメニュー一覧

メニュー	項目			説明	ページ
スピーカー設定	構成	フロント		フロントスピーカーの大きさを選択します。	60
		センター		センタースピーカーの大きさや有無を選択します。	60
		サラウンド		サラウンドスピーカーの大きさや有無を選択します。	60
		サブウーファー	位相	サブウーファー信号の位相を選択します。	60
			低音クロスオーバー	「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。	60
			エクストラベース	フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。	61
	距離			スピーカーと視聴位置間の距離を個別に設定します。	61
	音量			スピーカーの音量を個別に調節します。	61
	イコライザー			使用するイコライザーの種類を選択します。	61
	テストトーン			テストトーン出力を有効 / 無効にします。	62
音声設定	リップシンク			映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。	62
	ダイナミックレンジ			Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	63
	音量の上限			リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	63
	音量の初期値			電源を入れたときの音量を設定します。	63
DSP	シネマ DSP 3D モード			シネマ DSP 3D を有効 / 無効にします。	63
	音場プログラム			音場プログラムやデコーダーを設定します。	64
ファンクション設定	入力名変更			入力の名称を変更します。	66
	オートパワーダウン			本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	66
	明るさ			前面ディスプレイの明るさを調節します。	66
	ショートメッセージ			テレビ画面に表示されるショートメッセージを有効 / 無効にします。	66
	設定保護			セットアップメニューや、YPAO、シーンなどの設定を保護して、変更できないようにします。	67
HDMI 設定	HDMI コントロール	TV 音声入力		テレビの音声を入力する端子を選択します。	68
		ARC		オーディオリターンチャンネル（ARC）を有効 / 無効にします。	68
		スタンバイ連動		テレビの電源をオフにしたときに本機を連動させるかどうかを設定します。	68
		シーン連動		シーンを選択したときに外部機器の動作も連動させるかどうかを設定します。	68
	音声出力			HDMI 端子から入力された音声の出力先を設定します。	68
	スタンバイスルー			本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。	69
表示言語				テレビ画面に表示するメニューやメッセージなどの言語を設定します。	69

スピーカーの各種設定を変更する（スピーカー設定）

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。



■ 構成

スピーカーの出力特性を設定します。

- スピーカーの大きさ選択時、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」にしてください。

□ フロント

フロントスピーカーの大きさを選択します。

設定値	
大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。
小（初期値）	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域はサブウーファーから出力されます。

- 「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。

□ センター

センタースピーカーの大きさや有無を選択します。

設定値	
大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。
小（初期値）	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域はサブウーファー（またはフロントスピーカー）から出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

□ サラウンド

サラウンドスピーカーの大きさや有無を選択します。

設定値	
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。
小（初期値）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域はサブウーファー（またはフロントスピーカー）から出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

□ サブウーファー

サブウーファーの有無を設定します。

設定値	
使用する（初期値）	サブウーファーを接続している場合に選択する。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
使用しない	サブウーファーを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

「サブウーファー」を「使用する」に設定した場合は、「位相」、「低音クロスオーバー」、「エクストラベース」を設定できます。

■ 位相

設定値	
正相（初期値）	サブウーファーの位相を反転しない。
逆相	サブウーファーの位相を反転する。

- 低音が弱いときは、位相を変更すると改善される場合があります。

■ 低音クロスオーバー

「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定値

40 Hz、60 Hz、80 Hz（初期値）、90 Hz、100 Hz、110 Hz、120 Hz、160 Hz、200 Hz

■ エクストラベース

フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。

設定値

オフ（初期値）	フロントスピーカーの大きさに応じて、サブウーファーまたはフロントスピーカーの一方から低音域音声を出力する。
オン	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域音声を出力する。

- 「フロント」が「小」の場合は、自動的に「オフ」が選択されます。

■ 距離

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。

サブメニュー

メートル（初期値）	距離をメートルで表示する。
フィート	距離をフィートで表示する。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

0.30 m ～ 24.00 m（1.0 ft ～ 80.0 ft）　※ 0.05 m（0.2 ft）単位

初期値

3.00 m (10.0 ft)

■ 音量

スピーカーの音量を個別に調節します。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

－ 10.0 dB ～＋ 10.0 dB（0.5 dB 単位）

初期値

0.0 dB

■ イコライザー

使用するイコライザーの種類を選択します。
「YPAO：フラット」、「YPAO：フロントに近似」、「YPAO：ナチュラル」は、YPAO 測定後に設定できます。

設定値

使用しない（初期値）	イコライザーを使用しない。
グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使って、音質を手動で調節する場合に選択する。詳しくは「グラフィックイコライザーの手動編集」をご覧ください。
YPAO：フラット	各スピーカーの特性を均一に設定する。
YPAO：フロントに近似	フロントスピーカーの特性に合わせて、各スピーカーの特性を設定する。
YPAO：ナチュラル	高域特性を下げた状態で揃えて、各スピーカーの特性を設定する。

■ グラフィックイコライザーの手動編集

1 「イコライザー」で「グラフィック EQ」を選び、ENTER キーを押す。
2 カーソルキー（△ / ▽）で調整したいスピーカーを選び、ENTER キーを押す。
3 カーソルキー（◁ / ▷）で調節したい周波数を選ぶ。

選択項目

63 Hz/160 Hz/400 Hz/1.0 kHz/2.5 kHz/6.3 kHz/16.0 kHz

4 カーソルキー（△ / ▽）で増減量を調節する。

設定値

－ 6.0 dB ～＋ 6.0 dB（0.5 dB 単位）

初期値

0.0 dB



- 手順 3 ～ 4 を繰り返してお好みの音になるように調節してください。
- 調節するスピーカーの選択（手順 2）に戻るには、RETURN キーを押すか、カーソルキー（◁ / ▷）を繰り返し押します。

5 カーソルキー（△ / ▽ / ◁ / ▷）で「終了」を選択して、ENTER キーを押して「イコライザー」を終了します。

■ テストトーン

テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを有効にすると、他のスピーカー設定項目（「音量」や「グラフィック EQ」など）で、実際の効果を確認しながら調整できます。

設定値

オフ（初期値）	テストトーンを出力しない。
オン	音の出力が必要なパラメーターを設定する際に、テストトーンを自動的に出力する。

音声出力の各種機能を設定する（音声設定）

音声出力に関する設定を変更します。



■ リップシンク

映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。

□ 自動補正

自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合、映像と音声のずれが自動で調整されます。必要であれば、補正時間を微調整できます。「オフセット」には自動補正の値と微調整した値の差が表示されます。

設定値

0 ms ～250 ms（1 ms 単位）

初期値

0 ms

□ 手動補正

映像と音声のずれを手動で調整します。

設定値

0 ms ～250 ms（1 ms 単位）

初期値

0 ms

■ ダイナミックレンジ

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

最大（初期値）	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小 / 自動	（最小）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。
	（自動）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。

■ 音量の上限

リモコンまたは前面の VOLUME キーで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

− 30.0 dB 〜＋ 15.0 dB（5.0 dB 単位）、＋ 16.5 dB

初期値

＋ 16.5 dB

■ 音量の初期値

電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ（初期値）	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または− 80 dB 〜＋ 16.5 dB（0.5 dB 単位）に固定する（「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）。

音場プログラムやデコーダーを設定する（DSP）

音場プログラムやサラウンドデコーダーに関する設定を変更します。



- 選択した音場プログラムやデコーダーにより設定可能な項目が異なります。

■ シネマ DSP 3D モード（CINEMA DSP 3D）

シネマ DSP 3D（37 ページ）を有効 / 無効にします。有効にすると、音場プログラム（2ch ステレオ、7ch ステレオ以外）を選び、シネマ DSP 3D が機能する条件（37 ページ）で音声を再生すると、シネマ DSP 3D が機能します。

設定値

オン（初期値）	シネマ DSP 3D を有効にする。
オフ	シネマ DSP 3D を無効にする。

- 本項目は、選択中の音場プログラムがシネマ DSP の場合のみ設定できます。

■ 音場プログラム

音場プログラムやサラウンドデコーダーを設定します。設定を変更したい音場プログラム（36 ページ）を選んで、項目ごとに設定を変更します。このとき、音場プログラムも切り替わります。

■ 手順

1 カーソルキー（△ / ▽）で「音場プログラム」を選び、ENTER キーを押す。
2 カーソルキー（△ / ▽）で設定したい音場プログラムを選び、ENTER キーを押す。
3 カーソルキー（△ / ▽）で設定したい項目を選び、ENTER キーを押す。
4 カーソルキーで設定値を変更し、ENTER キーを押して確定する。
5 必要に応じて手順 3 ～ 4 を繰り返し、他の項目の設定値を変更する。
6 終了するには、SETUP キーを押す。



- 音場プログラムの詳細は、「好みのサウンドを選ぶ」（35 ページ）をご覧ください。
- 選択した音場プログラムやデコーダーにより設定可能な項目が異なります。

□ 2ch ステレオ

項目	説明	設定値
ダイレクト	アナログ音声再生時、自動的に DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスするかどうかを設定します。	自動（初期値）、オフ 「自動」に設定すると、以下の時にバイパスします。 ・トーンコントロールの「低音」、「高音」を 0dB に設定している（56 ページ）。 ・「イコライザー」を「使用しない」に設定している（61 ページ）。 ・「Adaptive DRC」を「オフ」に設定している（56ページ）。

□ 5ch ステレオ

項目	説明	設定値
センター音量	センターチャンネルの音量を調節します。	0% ～ 100%（初期値：100%）
サラウンド左音量	サラウンド左チャンネルの音量を調節します。	
サラウンド右音量	サラウンド右チャンネルの音量を調節します。	
リセット	各チャンネルの音量を初期値に戻します。	OK、CANCEL カーソルキー（◁/▷）で「OK」を選び ENTER キーを押すと、初期値に戻ります。



- スピーカー接続の有無により、「5ch ステレオ」で設定可能な項目が異なります。

□ MUSIC カテゴリー（2ch ステレオ、5ch ステレオを除く）

対象の音場プログラム

ミュンヘン、ウィーン、チェンバー、セラークラブ、ロキシーシアター、ボトムライン

項目	説明	設定値
エフェクト量の加減	音場効果のかかり具合を調節します。	－ 6 dB ～＋ 3 dB （初期値：0 dB） 値を大きくすると音場効果が増し、小さくすると減少します。

□ MOVIE カテゴリー

対象の音場プログラム

スポーツ、アクションゲーム、ロールプレイングゲーム、ミュージックビデオ、スタンダード、スペクタクル、サイファイ、アドベンチャー、ドラマ、モノムービー

項目	説明	設定値
デコーダー選択	選択した音場プログラムと組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを設定します。	DD PL II ムービー、Neo:6 シネマ
エフェクト量の加減	音場効果のかかり具合を調節します。	− 6 dB 〜＋ 3 dB （初期値：0 dB） 値を大きくすると音場効果が増し、小さくすると減少します。

- 「デコーダー選択」は「スタンダード」、「スペクタクル」、「サイファイ」、「アドベンチャー」、「ドラマ」選択時のみ有効です。

□ サラウンドデコード

項目	説明	設定値
デコーダー選択	使用するサラウンドデコーダーを設定します。	DD プロロジック、DD PL II ムービー、DD PL II ミュージック、DD PL II ゲーム、Neo:6 シネマ、Neo:6 ミュージック
リセット	各デコーダーの設定を初期値に戻します。	OK、CANCEL カーソルキー（◁/▷）で「OK」を選び ENTER キーを押すと、初期値に戻ります。

「デコーダー選択」で「DD PL II ミュージック」または「Neo:6 ミュージック」を選ぶと、さらに以下の項目を設定できます。

■ DD PL II ミュージック選択時

項目	説明	設定値
パノラマ	フロント音場の広がり感を調節します。	オフ（初期値）、オン 「オン」に設定すると、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感を得ることができます。
センターの広がり	センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。	0 〜 7（初期値：3） 値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。
ディメンション	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	− 3 〜＋ 3（初期値：0） 値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。

■ Neo:6 ミュージック選択時

項目	説明	設定値
センターイメージ	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	0.0 〜 1.0（初期値：0.3） 値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増します。

さまざまな機能を設定する（ファンクション設定）

本機をより便利に使うための機能を設定します。



■ 入力名変更

前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。

対象の入力

TUNER 以外の入力

■ 手順

1 「入力名変更」を選んで ENTER キーを押す。
2 カーソルキー（△ / ▽）で名称を変更したい入力を選び、ENTER キーを押す。
3 カーソルキー（△ / ▽）で変更したい名称に近い設定を選び、ENTER キーを押す。



4 （選んだ名称を確定したい場合）ENTER キーを押す。（→手順6へ）
（選んだ名称を編集したい場合）カーソルキー（◁ / ▷）で変更したい文字を選択し、カーソルキー（△ / ▽）で文字を変更する。
5 カーソルキー（◁ / ▷）で「OK」を選び、ENTER キーを押して確定する。
6 複数の入力名を変更する場合は、手順 2 ～ 5 を繰り返す。
7 終了するには、SETUP キーを押す。

- 手順5で「キャンセル」を選ぶと、設定した名称を保存せずに 1 つ前の画面に戻ります。

■ オートパワーダウン

本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

オフ（初期値）	電源を自動的にスタンバイにしない。
4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。スタンバイ 30 秒前に前面ディスプレイにカウントダウンが表示されます。

■ 明るさ

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値

－ 4 ～ 0（値が大きいほど明るい）

初期値

0

■ ショートメッセージ

テレビ画面に表示されるショートメッセージ（設定値などの表示）の表示 / 非表示を切り替えます。字幕付きの映像を視聴する際に、ショートメッセージで字幕が隠れたりする場合などは、オフに設定してください。

設定値

オフ	テレビ画面にショートメッセージを表示しない。
オン（初期値）	テレビ画面にショートメッセージを表示する。オンに設定しても、解像度を変換して映像信号を出力している場合には、ショートメッセージが表示されないことがあります。

■ 設定保護

セットアップメニュー、YPAO、シーンの設定を保護して、変更できないようにします。

設定値	
しない（初期値）	設定を保護しない。
する	設定を保護する。「しない」に戻すまで、設定変更が禁止されます。 設定を保護している間は、テレビ画面の右上にアイコン「🔒」が表示されます。

- 保護された項目の設定を変更しようとすると、テレビ画面に「保護されています」と表示されます。また、前面ディスプレイには「Memory Guard!」と表示されます。

HDMI の各種機能を設定する（HDMI 設定）

HDMI に関する設定を変更します。



■ HDMI コントロール

HDMI コントロール（87 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値	
オフ	HDMI コントロールを無効にする。
オン（初期値）	HDMI コントロールを有効にする。

「HDMI コントロール」を「オン」にした場合は、「TV 音声入力」、「ARC」、「スタンバイ連動」、「シーン連動」を設定できます。

- 「HDMI コントロール」を「オン」に設定している場合は、「音声出力」（68 ページ）と「スタンバイスルー」（69 ページ）は「コントロール連動」に固定され、設定変更ができなくなります。

□ TV 音声入力

テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。
ARC 機能を有効にしたテレビをお使いの場合は、テレビ側で音声出力を伴う操作をすると、本機の入力がテレビ音声に自動的に切り替わります。

設定値

AV1-6	AV1 ～ 6 のうち選択された入力端子からテレビの音声を入力する。
AUDIO	AUDIO 端子からテレビの音声を入力する。

初期値

AV4

- 「ARC」を「オン」に設定すると、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。したがって、本体背面の該当入力端子は使用できません。

□ ARC

ARC（19 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン（初期値）	ARC を有効にする。

□ スタンバイ連動

本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しているときに、テレビの電源オフに連動して本機の電源をオフにするかどうか設定します。

設定値

オフ	テレビの電源オフに連動しない。
オン	テレビの電源オフに連動して、本機の電源がオフになる。
自動（初期値）	以下のどちらかの場合に、テレビの電源をオフにすると、連動して本機の電源がオフになる。 • テレビを視聴している（入力が AV4） • HDMI 機器を使用している（入力が HDMI で、HDMI に接続した外部機器が動作中）

- スタンバイ連動は、HDMI コントロールに対応したテレビをお使いの場合に動作します。

□ シーン連動

SCENE キーを押したときに、本機に接続しているテレビや外部機器（BD/DVD レコーダーなど）の動作を連動をさせるかどうかを設定します。

設定項目

BD/DVD、TV、CD、RADIO

設定値

オフ	外部機器が SCENE キーに連動しない。
オン	該当する SCENE キーを押したときに、連動して外部機器が動作する。

初期値

オン（BD/DVD、TV）
オフ（CD、RADIO）

- シーン連動は、HDMI コントロール対応の外部機器（一部を除く）をお使いの場合に動作します（34 ページ）。

■ 音声出力

HDMI 端子から入力された音声の出力先を設定します。

□ アンプ

HDMI 入力音声を本機に接続したスピーカーから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	スピーカーから出力しない。
オン（初期値）	スピーカーから出力する。

□ HDMI OUT（TV）

HDMI 入力音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ（初期値）	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

- 「HDMI コントロール」を「オン」（67 ページ）に設定している場合は、「音声出力」は「コントロール連動」に固定され、設定の変更ができなくなります。

■ スタンバイスルー

本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ（初期値）	テレビに出力しない。
オン	テレビに出力する（1 ～ 3W の電力を消費）。

- 「HDMI コントロール」を「オン」に設定している場合は、「スタンバイスルー」は「コントロール連動」に固定され、設定の変更ができなくなります。
- スタンバイスルー動作中は、前面のスタンバイ表示が点灯します（10 ページ）。
- スタンバイスルー動作中でも、リモコンで HDMI1 ～ 4 の入力を切り替えることができます。切り替え時には、前面のスタンバイ表示が 2 回点滅します。

テレビ画面に表示される言語を設定する（表示言語）

テレビ画面の表示言語を設定します。



設定値

English	英語
日本語（初期値）	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
Русский	ロシア語

- 前面ディスプレイは常に英語で表示されます。
- ファイル名、フォルダ名、曲名の表示は、本項目で選択した言語に切り替わりません。

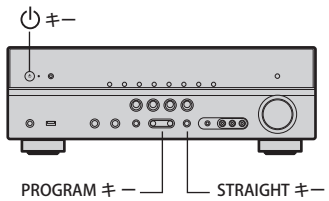
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

アドバンスドセットアップメニューを操作する

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら ⏻ キーを押す。



3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

5 ⏻ キーで電源をスタンバイにしてから、再度電源を入れる。

設定変更が反映されて、本機の電源が入ります。

アドバンスドセットアップメニューでできること

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	70
TV FORMAT	ビデオ信号方式を切り替えます。	71
INIT	各種設定を初期化します。	71

リモコン ID の変更

```
REMOTE ID -ID1
```

リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値

ID1（初期値）、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

各手順を 1 分以内に操作してください。前の手順から 1 分経過すると設定が中止されます。

1 ボールペンなどの先の細長いもので、リモコンの CODE SET ボタンを押す。
2 SOURCE/RECEIVER キーを押す。
3 数字キーで「5019」（ID1 に設定）または「5020」（ID2 に設定）を入力する。
設定が完了すると、SOURCE/RECEIVERキーが2回点滅します。
6回点滅した場合は設定失敗です。手順1からやり直してください。

- リモコン ID を変更しても、登録済みのリモコンコード（73 ページ）は保持されます。

ビデオ信号方式の変更



お使いのテレビに合わせて、本機のビデオ信号方式を NTSC か PAL に切り替えます。

設定値

NTSC（初期値）、PAL

設定の初期化



選択した項目にしたがって設定を初期化します。

設定値

DSP PARAM	音場プログラムに関連する設定を初期化する。
ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL（初期値）	初期化しない。



リモコンで外部機器を操作する

外部機器のリモコンコードを登録すれば、本機のリモコンでテレビや再生機器（BD/DVD レコーダーなど）を操作できます。

- 赤外線受光部を持たない外部機器は操作できません。
- 外部機器の本体側のリモコンIDが「ID1」に設定されていることをご確認ください。ほかのIDを使用している場合、リモコンコードを登録しても正しく機能しません。
- リモコンの電池が切れた状態で2分以上経過すると、リモコンコードの登録が消去されることがあります。この場合は、新しい乾電池に交換してから、リモコンコードを登録し直してください。
- 対応するリモコンコードを全て設定しても、本機のリモコンで操作できない場合は、本機では対応していない機器になります。
- 「リモコンコード一覧」に記載されていないメーカーや外部機器は、本機のリモコンを使って操作できません。各機器の専用のリモコンをお使いください。
- お使いの外部機器の型番から、対応するリモコンコードを確認することはできません。

本機と再生機器両方の HDMI コントロールを有効にすると、リモコンコードを登録しなくても、本機のリモコンを使って操作できることがあります。

対応する外部機器は、下記ウェブサイトでご確認ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

テレビのリモコンコードを登録する

テレビのリモコンコードを登録して、本機のリモコンで操作します。

- テレビの音声出力を本機の入力端子に接続している場合は、「再生機器のリモコンコードを登録する」（73ページ）の手順でテレビのリモコンコードを登録してください。

1 「リモコンコード一覧」（75ページ）で、テレビのリモコンコードを確認する。

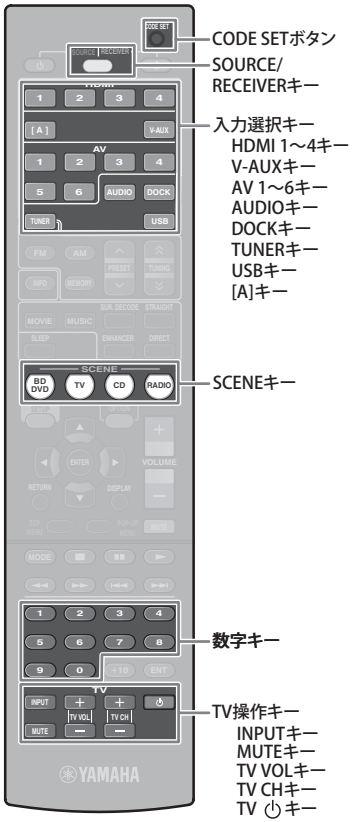
2 ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SETボタンを押す。

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は手順 2 からやり直してください。

3 TV ⏻ キーを押す。

4 数字キーでリモコンコード（4桁）を入力する。

登録が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
6 回点滅した場合は登録失敗です。手順 2 からやり直してください。



■ テレビの操作

テレビのリモコンコードを登録すると、本機で選択している入力に関係なく、いつでもTV 操作キーでテレビを操作できます。

TV 操作キー	INPUT キー	テレビの映像入力を切り替えます。
	MUTE キー	テレビ音声を消音します。
	TV VOL キー	テレビの音量を調節します。
	TV CH キー	テレビのチャンネルを切り替えます。
	TV ⏻ キー	テレビの電源を入 / 切します。

- テレビのリモコンコードを入力選択キーに登録した場合は、登録した入力に切り替えるとTV操作キーでテレビの操作ができます。

再生機器のリモコンコードを登録する

再生機器（BD/DVD レコーダーなど）のリモコンコードを登録して、本機のリモコンで操作します。入力選択キーに割り当てるため、入力を選ぶのと同時に、リモコンで操作する再生機器を切り替えることができます。

- 初期状態では、AV3キーにCDプレーヤー（Yamaha: 5095）が登録されています。その他の入力選択キーは未登録です。

1 「リモコンコード一覧」（75ページ）で、再生機器のリモコンコードを確認する。

2 ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SETボタンを押す。

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は手順 2 からやり直してください。

3 入力選択キーを押す。

（例）HDMI1 端子に接続した BD/DVD レコーダーのリモコンコードを登録する場合は、HDMI1 キーを押します。

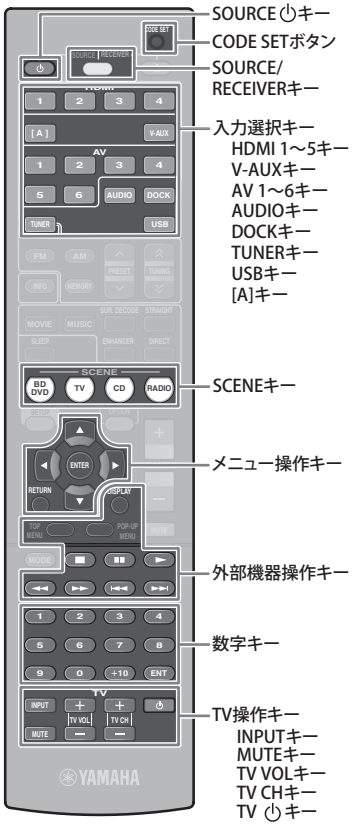
- [A] キーは、外部機器のみ操作したいときに使用します。本機のインプットの選択と連動させず外部機器を操作したい場合は、このキーにリモコンコードを登録してください。たとえばテレビ用のリモコンコードを登録すれば、本機の操作とは連動させずにリモコンでテレビを操作できます。

4 数字キーでリモコンコード（4桁）を入力する。

登録が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。

6 回点滅した場合は登録失敗です。手順 2 からやり直してください。

- リモコンコードを登録した入力選択キーをSCENEキーに登録する方法については、「シーン機能の登録内容を変更する」（34ページ）をご覧ください。



■ 再生機器の操作

再生機器のリモコンコードを入力選択キーに登録すると、入力またはシーン選択後に以下のキーで再生機器を操作できます。

- SOURCE/RECEIVERキーで、メニュー操作キーおよび数字キーの操作対象（本機、外部機器）を切り替えます。本機を選んでいるときはオレンジ色、外部機器を選んでいるときは緑色にSOURCE/RECEIVERキーが点灯します。

SOURCE ⏻ キー		再生機器の電源を入 / 切します。
メニュー操作キー	カーソルキー	項目を選びます。
	ENTER キー	選択項目を決定します。
	RETURN キー	1 つ前の表示に戻します。
外部機器操作キー	DISPLAY キー	ディスプレイの表示を切り替えます。
	TOP MENU キー	トップメニューを表示します。
	POP-UP MENU キー	ポップアップメニューを表示します。
	■ キー	再生を停止します。
	▮▮ キー	再生を一時停止します。
	► キー	選択中の曲（映像）を再生します。
	◄◄ キー	押し続けている間、曲（映像）を巻き戻し / 早送りします。
	►► キー	
	⏮ キー	再生している曲（映像）の先頭 / 次の曲（映像）にスキップします。
	⏭ キー	
数字キー		数値を入力します。
TV 操作キー		テレビを操作します。

- 再生機器側のリモコンに対応するキーがある場合のみ機能します。

リモコンコードを初期化する

登録したリモコンコードをすべて初期化します。

1 **ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SETボタンを押す。**

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は最初からやり直してください。

2 **SOURCE/RECEIVERキーを押す。**

3 **数字キーで「9981」と入力する。**

消去が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。6 回点滅した場合は消去失敗です。最初からやり直してください。

- リモコンコードを初期化すると、SCENE キーに登録した入力選択キーの設定（34 ページ）も初期化されます。

リモコンコード一覧

リモコンコードが複数ある場合は、左から順番にお試しください。
お使いの外部機器の型番から、対応するリモコンコードを確認することはできません。

● テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa	0078, 0379
EIZO	0509
Epson	0155, 0206, 0359
Fujitsu	0059, 0069, 0074, 0075, 0282
Funai	0051, 0058, 0059, 0112, 0113, 0115, 0118, 0119, 0179, 0337
Hitachi	0008, 0012, 0026, 0066, 0084, 0092, 0093, 0120, 0172, 0173, 0255, 0270, 0271, 0282, 0320, 0335, 0338, 0342, 0344, 0346, 0347, 0365, 0382, 0448, 0456, 0467, 0482
LG	0031, 0053, 0066, 0116, 0117, 0140, 0161, 0164, 0175, 0195, 0269, 0277, 0282, 0300, 0309, 0317, 0320, 0323, 0328, 0342, 0343, 0346, 0349, 0350, 0366, 0368, 0377, 0466, 0471, 0478
Mitsubishi	0008, 0026, 0031, 0053, 0066, 0084, 0093, 0098, 0150, 0178, 0289, 0320, 0339, 0344, 0350, 0376
Orion	0043, 0146, 0283, 0320, 0323, 0328, 0343, 0349, 0350
Panasonic	0016, 0017, 0020, 0022, 0023, 0035, 0052, 0056, 0084, 0085, 0133, 0163, 0193, 0284, 0286, 0290, 0292, 0320, 0325, 0347, 0356, 0483
Philips	0267, 0296, 0299, 0301, 0303, 0305, 0313, 0319, 0452, 0459, 0460
Pioneer	0008, 0026, 0094, 0095, 0161, 0320, 0345, 0347, 0349, 0350, 0458, 0480
Samsung	0004, 0005, 0006, 0007, 0008, 0012, 0026, 0031, 0036, 0050, 0053, 0076, 0077, 0079, 0114, 0124, 0125, 0126, 0127, 0139, 0161, 0183, 0185, 0190, 0191, 0258, 0264, 0277, 0282, 0320, 0323, 0334, 0337, 0342, 0343, 0349, 0350, 0351, 0373, 0453, 0468
Sanyo	0008, 0019, 0068, 0070, 0071, 0099, 0161, 0168, 0223, 0237, 0277, 0282, 0288, 0295, 0323, 0342, 0344, 0369, 0469
Sharp	0000, 0001, 0002, 0003, 0007, 0008, 0012, 0026, 0060, 0088, 0089, 0091, 0138, 0165, 0170, 0178, 0198, 0229, 0262, 0278, 0279, 0291, 0308, 0312, 0336, 0344, 0354, 0370, 0449, 0450, 0451, 0464, 0474, 0476, 0481
Sony	0038, 0044, 0045, 0047, 0055, 0090, 0104, 0105, 0107, 0110, 0123, 0184, 0220, 0248, 0249, 0251, 0252, 0254, 0326, 0343, 0344, 0371, 0374, 0457, 0475, 0486
Toshiba	0018, 0019, 0040, 0041, 0046, 0073, 0100, 0103, 0108, 0109, 0111, 0121, 0132, 0166, 0208, 0210, 0214, 0217, 0260, 0268, 0282, 0283, 0293, 0304, 0306, 0307, 0329, 0344, 0355, 0454
Victor	0012, 0014, 0015, 0056, 0064, 0065, 0067, 0169, 0174, 0297, 0314, 0344, 0350, 0375
Yamaha	0008, 0026, 0050, 0053, 0080, 0081, 0082, 0083, 0086, 0087

● VTR

Aiwa	1024, 1026, 1027, 1069
Funai	1026, 1069
Hitachi	1011, 1026, 1027, 1028, 1046, 1062
LG	1010, 1026, 1031, 1047, 1054, 1056, 1071, 1103, 1221
Mitsubishi	1026, 1028, 1079
NEC	1027, 1064, 1065
Orion	1023, 1024, 1051, 1115, 1217
Panasonic	1000, 1022, 1044, 1055, 1068, 1072, 1085, 1090, 1091, 1120, 1121, 1214
Pioneer	1028, 1036
Samsung	1002, 1034, 1041, 1043, 1057, 1060, 1070, 1084, 1110, 1116, 1122, 1124, 1220, 1222
Sanyo	1032, 1065, 1070
Sharp	1003, 1033, 1077, 1107, 1127, 1219
Sony	1001, 1016, 1048, 1053, 1073, 1074, 1080, 1081, 1082, 1083, 1108, 1118, 1216
Toshiba	1004, 1016, 1027, 1028, 1037, 1049, 1052, 1086, 1087, 1097, 1109, 1112, 1194
Victor	1007, 1018, 1027, 1039, 1064, 1065, 1066, 1067, 1078, 1089, 1092, 1093, 1094, 1095, 1113, 1208, 1209, 1212, 1213, 1215, 1218
Yamaha	1064, 1065

● DVD プレーヤー

Apple	2241
Denon	2059, 2151, 2193, 2332
Funai	2137
Hitachi	2062, 2090, 2115, 2274, 2282, 2316, 2359, 2380
Kenwood	2041, 2151, 2348
LG	2002, 2033, 2038, 2057, 2129, 2133, 2189, 2191, 2223, 2238, 2270, 2288, 2335, 2373, 2375
Marantz	2328
Onkyo	2159, 2368
Panasonic	2011, 2024, 2034, 2042, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2151, 2159, 2164, 2166, 2167, 2172, 2173, 2175, 2209, 2214, 2275, 2277, 2278, 2281, 2282, 2283, 2301, 2374, 2470
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109, 2157, 2180, 2190, 2212, 2269, 2272, 2299, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2344, 2345, 2347, 2379
Samsung	2000, 2045, 2077, 2112, 2113, 2114, 2115, 2151, 2200, 2216, 2219, 2228, 2264, 2265, 2271, 2279, 2294, 2303, 2329, 2365
Sanyo	2134, 2145, 2217, 2292
Sharp	2006, 2040, 2088, 2091, 2182, 2194, 2220, 2221, 2231, 2236, 2293, 2340
Sony	2004, 2005, 2007, 2009, 2014, 2015, 2023, 2026, 2027, 2052, 2068, 2069, 2070, 2071, 2074, 2075, 2084, 2085, 2087, 2168, 2171, 2208, 2210, 2211, 2258, 2273, 2284, 2285, 2312, 2313, 2314, 2315, 2318, 2319, 2466
Teac	2149, 2333, 2355, 2383
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2048, 2049, 2054, 2055, 2072, 2073, 2076, 2078, 2079, 2086, 2145, 2159, 2218, 2233, 2256, 2259, 2296, 2369
Victor	2020, 2096, 2097, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2106, 2107, 2160, 2257, 2260, 2262, 2263, 2321, 2324, 2326, 2327, 2343, 2464, 2465, 2468, 2469, 2471
Yamaha	2056, 2064, 2065, 2080, 2081, 2082, 2083, 2089, 2118, 2151, 2323

● BD プレーヤー / レコーダー

LG	2033
Panasonic	2011, 2209, 2214
Pioneer	2212
Samsung	2045, 2113
Sharp	2194, 2220, 2221
Sony	2075
Victor	2475

● DVD レコーダー

Hitachi	2062, 2090
LG	2033, 2057, 2223, 2238
Panasonic	2011, 2034, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109
Samsung	2000, 2112, 2113, 2216, 2219
Sanyo	2217
Sharp	2088, 2091
Sony	2004, 2005, 2007, 2052, 2068, 2069, 2074, 2084, 2085, 2087, 2208, 2210, 2211
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2049, 2054, 2055, 2076, 2086
Victor	2100, 2101, 2106, 2107
Yamaha	2056

● ケーブルテレビチューナー

Panasonic	3112, 3118, 3122
Pioneer	3001, 3006, 3094, 3098, 3114, 3116, 3120
Samsung	3069, 3089, 3114, 3120
Sony	3092, 3125
Toshiba	3122

● 衛星放送チューナー

Hitachi	4006, 4114, 4199, 4203
Humax	4025, 4030, 4060, 4097
Mitsubishi	4006, 4015, 4202
Panasonic	4006, 4035, 4036, 4121, 4124, 4126, 4198, 4221
Pioneer	4046, 4213
Samsung	4000, 4001, 4003, 4032, 4064, 4069, 4071, 4120, 4123, 4196, 4200
Sony	4067, 4070, 4213
Toshiba	4194, 4202, 4203
Victor	4029, 4065, 4089, 4117

● CD プレーヤー

Yamaha	5082, 5095

● CD レコーダー

Yamaha	5083

● MD プレーヤー

Yamaha	5080, 5081, 5086

● テープデッキ

Yamaha	5084, 5087

● チューナー

Yamaha	5066, 5085, 5088, 5090, 5092

● アンプ

Yamaha	5098

● Apple TV

Apple	2241

Apple TV は、Apple Inc. の商標または登録商標です。

付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、YPAO でスピーカー設定を再調整してください（28 ページ）。手動でスピーカー設定を調整する場合は、セットアップメニューの「スピーカー設定」をご利用ください（60 ページ）。

小さな子供がいるので音量が大きくならないようにしたい

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、セットアップメニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください（63 ページ）。

電源を入れた直後に音量が大きいとびっくりする

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、セットアップメニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください（63 ページ）。

設定変更を禁止したい

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、セットアップメニューの「設定保護」をご利用ください（67 ページ）。

本機のリモコンを操作すると別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう

複数のヤマハ製機器お使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください（70 ページ）。

故障かな?と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。
対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にあるご相談センターにお問い合わせください。

まず以下の点を確認してください。

① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源ケーブルのプラグがコンセントにしっかりと接続されている。

② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム

症状	原因	対策
電源が入らない	内部回路に問題がある。	製品保護のため電源が入らなくなっている可能性があります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください（91 ページ）。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	前面の ⏻（電源）キーを 10 秒以上押し続けてください。本機の設定が初期化され、再起動します。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	リモコンまたは本体の操作をしない状態で一定時間が経過したため、オートパワーダウンが作動した。	オートパワーダウンを無効にするには、セットアップメニューの「オートパワーダウン」を「オフ」に設定してください（66 ページ）。
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。
	継続的に大音量で音声を出力しつづけたため、温度プロテクションが作動した。	本機が常温に戻るまで待ってからもう一度電源を入れ、音量を下げて再生してください（33 ページ）。
本機が操作を受け付けない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	前面の ⏻（電源）キーを 10 秒以上押し続けてください。本機の設定が初期化され、再起動します。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力を選んでください。
	CD-ROM などの再生機器から本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。
	消音 (MUTE) に設定されている。	MUTE キーを押して消音を解除してください。
音量が上がらない	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	音量の上限値が低く設定されている。	セットアップメニューの「音量の上限」で上限値を調節してください (63 ページ)。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている(AV レシーバーの特性上、外部機器の電源オン / オフの影響を受けることがあります)。	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	オプションメニューの「信号情報」にある「チャンネル (Chan)」で、入力信号のチャンネル数を確認できます (57 ページ)。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	前面ディスプレイのスピーカー表示で出力チャンネルの数を確認できます(11 ページ)。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	YPAO を実行するか (28 ページ)、セットアップメニューの「構成」で該当スピーカーの大きさまたは有無を設定してください (60 ページ)。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	YPAO を実行するか (28 ページ)、セットアップメニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください (61 ページ)。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。
	音量の上限値が低く設定されている。	セットアップメニューの「音量の上限」で上限値を調節してください (63 ページ)。
	問題のあるスピーカーが確認できない。	セットアップメニューの「テストトーン」を使って音声が出力されていないスピーカーを確認してください (62 ページ)。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	確認するには、セットアップメニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください (61 ページ)。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	YPAO を実行するか (28 ページ) セットアップメニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください (60 ページ)。
	サブウーファーの電源が入っていない。	サブウーファーの電源を入れてください。
	サブウーファー本体側の音量が低く設定されている。	サブウーファー本体の音量を調節してください。
HDMI ケーブルで接続した再生機器の音が出ない	再生機器が著作権保護 (HDCP) に対応していない。	オプションメニューの「信号情報」で HDMI エラーに関するメッセージが表示されていないか確認できます (57 ページ)。
	HDMI 入力音声をスピーカーから出力しない設定にしている。	セットアップメニューの「音声出力」で、「アンプ」を「オン」に設定してください(68 ページ)。
	制限数を越える HDMI 機器が接続されている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。

症状	原因	対策
テレビの音声が本機から出ない	（HDMI コントロール使用時） 「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	セットアップメニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください（68 ページ）。
	（ARC 使用時） 本機またはテレビの ARC が無効になっている。	セットアップメニューの「ARC」を「オン」に設定してください（68 ページ）。また、テレビ側で ARC を有効にしてください。
	ARC 非対応のテレビを、HDMI ケーブルのみで本機と接続している。	光デジタルケーブルを使って AV4 に接続する（20、21 ページ）か、他のケーブルを接続してから「TV 音声入力」で入力を設定してください（68 ページ）。
	テレビから音声を出力している。	「HDMI コントロール」（67 ページ）か「音声出力」（68 ページ）を正しく設定し、本機から音声が出力されるようにしてください。
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
DTS-CD 再生時に雑音が入る	（雑音のみが出力される場合） アナログ音声で本機に入力されている。	デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で入力してください。それでも解消されない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。
音がひずむ	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている（AV アンプの特性上、可能性があります）。	該当機器すべての電源を入れてください。
USB 機器の曲が途切れて再生される	USB 機器の転送速度が遅すぎる。	他の USB 機器を使用してください。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	本機が出力している映像信号にテレビが対応していない。	（HDMI 信号の場合）再生機器の映像出力信号の設定を本機が対応している解像度に変更してください。再生機器側で設定できない場合は、別の端子を使って機器を接続してください。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI ケーブルで接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が対応しない解像度の映像信号を入力している。	入力された映像信号の解像度は、オプションメニューの「信号情報」で確認できます（57ページ）。本機が対応している映像信号については「HDMI について」（87 ページ）をご覧ください。
	再生機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	オプションメニューの「信号情報」で確認できます（57 ページ）。
	制限数を越える HDMI 機器が接続されている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
本機のメニューが表示されない	HDMI 以外のケーブルを使って本機とテレビを接続している。	HDMI ケーブルを使って本機とテレビを接続してください。
	テレビの入力が正しく設定されていない。	テレビの入力設定を本機の HDMI OUT 端子からの映像に切り替えてください。
	入力が USB または DOCK で、iPod 操作中に MODE キーを押した。	再度 MODE キーを押すと、テレビ画面に再生画面またはブラウズ画面が表示されます（48 ページ）。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	受信モードをモノラルに設定してください（39 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。
	AM ラジオの電波が弱いかアンテナの接続がゆるい。	AM アンテナの方向を変えてください。
		市販の屋外アンテナを使用してください。
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください（39 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオ局を登録（プリセット）できない	自動登録（オートプリセット）を使用した。	オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください（39 ページ）。

リモコン

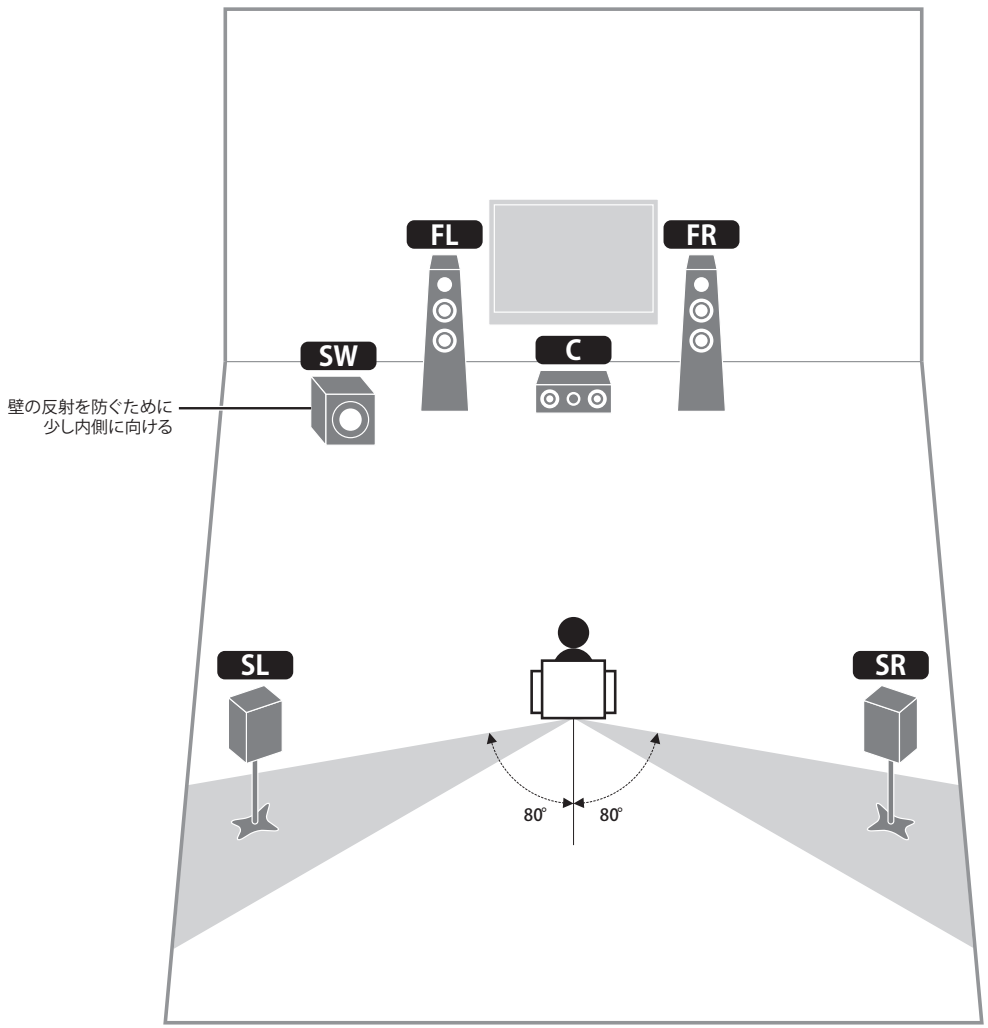
症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（7 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください（7 ページ）。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	操作対象が外部機器になっている。	RECEIVER/SOURCE キーで操作対象を本機に切り替えてから（オレンジ色に点灯）、操作してください（13 ページ）。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（70 ページ）。
外部機器を操作できない	操作対象が本機になっている。	RECEIVER/SOURCE キーで操作対象を外部機器に切り替えてから（緑色に点灯）、操作してください（13 ページ）。
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを登録し直してください（72、73 ページ）。機器によってはリモコンコードを正しく設定しても操作できない場合があります。

メッセージ一覧

メッセージ （カッコ内は前面ディスプレイ表示）	内容	対策
アクセスエラーです （Access error）	USB 機器または iPod にアクセスできない。	他の USB 機器または iPod を再生してみてください。
	USB 機器から本機への信号経路に問題がある。	本機の電源をオフにして、USB 機器を本機の USB 端子にもう一度接続してください（51 ページ）。
		iPod を USB 端子に接続している場合は、iPod の電源を入れ直してください。
コンテンツがありません （No content）	USB 機器や iPod に再生可能なデータがない。	再生可能なデータが入っている USB や iPod を接続してください。
	選択したフォルダー内に再生可能なデータがない。	RETURN キーまたはカーソルキー（◁）を押して、1つ上の階層に戻ってください。
再生できません （Unable to play）	何らかの原因で iPod の曲を再生できない。	iPod に保存されている曲を確認してください。
	選択した曲が本機が対応していない形式か破損している。	別の曲を選曲してください。
接続エラー （Connect error）	iPod との通信に問題が発生している。	本機の電源を切り、iPod ドックを接続し直してください（43 ページ）。
		iPod を iPod ドックに接続し直してください（43 ページ）。
接続対象外の iPod です （Unknown iPod）	非対応の iPod が接続されている。	対応している iPod をご利用ください（42 ページ）。
見つかりません （Not found）	Bluetooth 機器が見つからない。	（ペアリング時） Bluetooth 機器の電源を入れ、ペアリングモードにしてください。
		（接続時） - Bluetooth 機器の電源を入れてください。 - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーを 10 メートル以内に置いてください。 - 再度ペアリングしてください。
読み込み中です （Loading...）	USB 機器や iPod の情報を読み込んでいる。	データ量の多い機器を接続した場合は、読み込みに時間がかかることがあります。しばらくお待ちください。
デバイスがありません	USB 機器から本機への信号経路に問題がある。	本機の電源をスタンバイに切り替えて、USB機器を本機のUSB端子にもう一度接続してください（51ページ）。
		iPod を USB 端子に接続している場合は、iPod の電源を入れ直してください。
	USB 端子に USB 機器が接続されていない。	USB 機器を本体前面の USB 端子に接続してください（51 ページ）。
（CHECK SP WIRES）	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。
（View ON SCREEN）	前面ディスプレイで表示されないメニュー項目を選択している。	HDMI ケーブルで接続したテレビで確認してください。
		前面ディスプレイの左上に「SETUP」が表示されているときは、リモコンの SETUP キーを押すと、前面ディスプレイが通常表示に戻ります。
		前面ディスプレイの左上に「USB」か「DOCK」が表示されているときは、カーソルキー（◁）を押すと、メニューリストか再生中の曲の情報が表示されます。

理想的なスピーカーレイアウト

下図は理想的なスピーカー配置を示したものです。スピーカーを配置する際は、下図を目安としてお使いいただくことをおすすめします。
ただし、YPAO によりスピーカー配置に合わせてスピーカー設定を自動で調節できます。



音声に関する用語

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D

音場の高さ方向の情報を含んだ実測データを利用した音場効果です。シネマ DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な 3D 感覚の音場をお部屋に再現します。

バーチャルシネマ DSP

サラウンドスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントスピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

MP3 や AAC など、携帯音楽プレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

リップシンク（Lip sync）

HDMI がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動で補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動で検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。本機は AAC デコーダーを搭載しているため、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント左 / 右、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド左 / 右）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。
サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surround は、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のためにフロント左 / 右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動で調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理をします。

Dolby TrueHD

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。BD ではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力された DSD 信号の再生が可能です。

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

DTS Express

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワークストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。BD ではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS Neo:6

2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS-HD High Resolution Audio

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（BD の場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD Master Audio

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。BD で標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号（青色差信号）および Pr/Cr 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているため、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるテレビを本機に接続してください。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

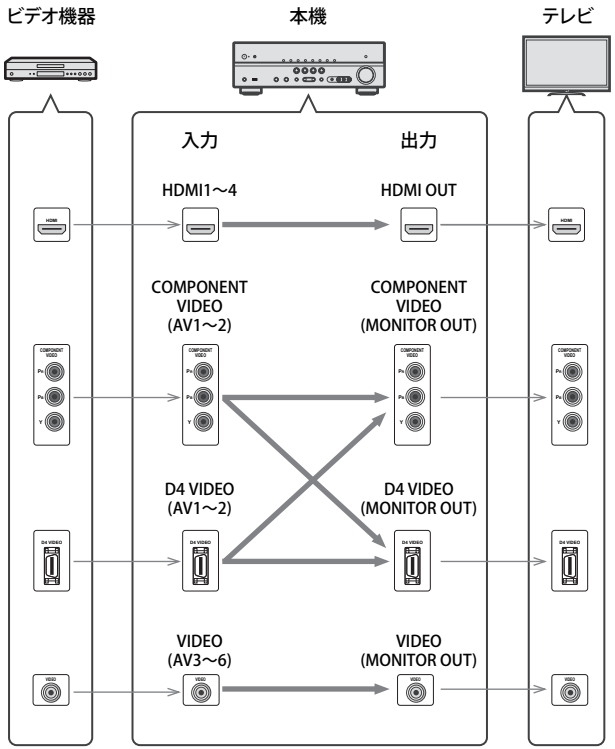
x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。

- 本機に入力されたアナログ映像信号は、同じ種類のアナログ映像端子からのみ出力されます。
- HDMI 映像信号は、入力時と同じ解像度で HDMI OUT 端子から出力されます。

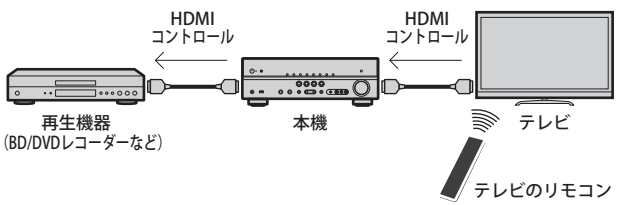


HDMI について

HDMI コントロール

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

接続方法については、「テレビを接続する」（19 ページ）および「ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）」（23 ページ）をご覧ください。



HDMI コントロールでできる本機の操作

- **電源の入 / 切（スタンバイ）**
- **音量調節（大 / 小、消音）**
- **入力切替（操作した外部機器からの映像 / 音声を選択）**

- HDMI コントロールを使って、本機の以下の操作にテレビ / 再生機器を連動させることもできます。
  - シーン切り替え（34 ページ）
  - セットアップメニューの表示（58 ページ）
  - 本機のリモコンを使った外部機器の操作（73 ページ）

HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の設定が必要です。

1 **本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **本機、テレビ、HDMIコントロール対応の再生機器（BD/DVDレコーダーなど）のHDMIコントロール機能を有効にする。**

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、セットアップメニューの「HDMI コントロール」（67 ページ）を「オン」（初期値）に設定します。

3 **テレビの電源を切る。**

操作に合わせて本機と再生機器の電源も切れます。連動しない場合は、手動で電源を切ってください。

4 **テレビの電源を入れる。**

操作に合わせて本機の電源も入ります。連動しない場合は、手動で電源を入れてください。

5 **テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。**

6 **再生機器の電源を入れ、以下の点を確認する。**

本機： 再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ： 画面に再生機器の映像が表示されている。

7 **テレビのリモコンを使って電源の入/切、音量調節、音声出力機器の選択などの操作を行い、本機が連動するか確認する。**

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。

  http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

HDMI 準拠の信号

音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	BD（ブルーレイディスク）、HD DVD

- **一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。**
- **本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。**
- **ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。**
- **再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。**

映像信号について

以下の解像度に対応しています。
480i/60Hz
480p/60Hz
576i/50Hz
576p/50Hz
720p/60Hz、50Hz
1080i/60Hz、50Hz
1080p/60Hz、50Hz、24Hz

商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTS および記号は DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD、DTS-HD Master Audio、および DTS ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアを含みます。著作権 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

iPod™/iPhone™

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod または iPhone と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。
iPod および iPhone は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

Bluetooth®

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

主な仕様

入力端子

- アナログ音声 ..... 4 (AV5、AV6、AUDIO、VIDEO AUX)
- デジタル音声
  - 光 ..... 2 (AV1、AV4)
  - 同軸 ..... 2 (AV2、AV3)
- 映像
  - コンポジット ..... 5 (AV3-6、VIDEO AUX)
  - D4 ビデオ ..... 2 (AV1、AV2)
  - コンポーネントビデオ ..... 2 (AV1、AV2)
- その他
  - DOCK ..... 1 (ステレオ音声、コンポジット映像)
  - USB 1
    - デバイスタイプ ..... USB Mass Storage Class
    - 音声フォーマット ..... MP3、WMA、WAV (PCM)、MPEG-4 AAC
    - 対応サンプリング周波数 ..... 48 kHz/24 bit
    - 画像フォーマット（アルバムイメージ） ..... PNG、JPEG
  - PORTABLE ..... 1（VIDEO AUX）

出力端子

- アナログ音声
  - スピーカー出力 ..... 5 チャンネル
    - フロント左 / 右（FRONT L/R）
    - センター（CENTER）
    - サラウンド左 / 右（SURROUND L/R）
  - サブウーファー出力 ..... 1 (SUBWOOFER)
  - 録音出力 ..... 1 (AV OUT)
  - ヘッドホン出力 ..... 1 (PHONES)
- 映像
  - モニター出力
    - コンポジット 1
    - D4 ビデオ 1
    - コンポーネントビデオ 1
  - 録画出力
    - コンポジット ..... 1 (AV OUT)

HDMI

- 入力 ..... 4 (HDMI1 ～ 4)
- 出力 ..... 1 (HDMI OUT)
- HDMI 規格
  - Deep Color
  - “x.v.Color”
  - Auto Lip Sync
  - ARC (オーディオリターンチャンネル)
  - 3D
- 映像フォーマット
  - リピーターモード
    - VGA
    - 480i@60 Hz
    - 576i@50 Hz
    - 480p@60 Hz
    - 576p@50 Hz
    - 1080i@50/60 Hz
    - 720p@50/60 Hz
    - 1080p@24/50/60 Hz
- 音声フォーマット
  - Dolby Digital
  - DTS
  - DSD（6 チャンネル）
  - Dolby Digital Plus
  - Dolby TrueHD
  - DTS-HD
  - PCM（2 ～ 8 チャンネル、最大 192kHz/24bit）
- 著作権保護 ..... HDCP 準拠
- リンク機能 ..... CEC 対応

チューナー

- アナログチューナー
  - FM/AM ..... 1（TUNER）

対応デコードフォーマット

- デコードフォーマット
  - Dolby TrueHD
  - Dolby Digital Plus
  - Dolby Digital
  - DTS-HD Master Audio
  - DTS-HD High Resolution
  - DTS Express
  - DTS
  - DTS-ES Matrix 6.1
  - DTS-ES Discrete 6.1
  - DTS 96/24
  - AAC
- ポストデコードフォーマット
  - Dolby Pro Logic
  - Dolby Pro Logic II Music
  - Dolby Pro Logic II Movie
  - Dolby Pro Logic II Game
  - DTS Neo:6 Music
  - DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

- 定格出力（1 チャンネル駆動）
  （1kHz、0.9% THD、6 Ω）
  フロント左 / 右 105W/ch
  センター 105W/ch
  サラウンド左 / 右 105W/ch
- 定格出力（2 チャンネル同時駆動）
  （1kHz、0.9% THD、6 Ω）
  フロント左 / 右 ..... 85W+85W
  センター 85W
  サラウンド左 / 右 ..... 85W+85W
- 実用最大出力（JEITA、1kHz、10% THD、6 Ω）
  フロント左 / 右 135W/ch
  センター 135W/ch
  サラウンド左 / 右 135W/ch
- ダイナミックパワー（IHF）
  フロント左 / 右（6/4/2 Ω）..... 110/130/150W
- ダンピングファクター
  フロント左 / 右、20Hz ～ 20kHz、8 Ω ..... 120 以上
- 入力感度 / 入力インピーダンス
  AV5 他（1kHz、100W/6 Ω）..... 200mV/47k Ω
- 最大許容入力
  AV5 他（1kHz、0.5% THD、エフェクトオン）..... 2.3 V
- 出力電圧 / 出力インピーダンス
  AV OUT ..... 200 mV/1.2k Ω
  SUBWOOFER ..... 1 V/1.2k Ω
- ヘッドホン出力 / 出力インピーダンス
  AV5 他（1kHz、50mV、8 Ω）..... 100mV/470 Ω
- 周波数特性
  AV5 他→フロント（10Hz ～ 100kHz）..... +0/-3dB
- S/N 比（IHF ネットワーク）
  AV5 他（DIRECT, 入力ショート 250mV、スピーカー出力）
  ..... 100dB 以上
- 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
  フロント左 / 右 ..... 150 μ V 以下
- チャンネルセパレーション
  AV5 他（入力 5.1k Ωショート、1kHz/10kHz）
  ..... 60dB/45dB 以上
- 音量調整
  可変範囲 ..... MUTE、-80dB ～ +16.5dB
  ステップ 0.5dB
- トーンコントロール特性（フロント左 / 右）
  Bass（可変幅）..... ± 6dB/0.5dB ステップ、50Hz
  Bass（ターンオーバー周波数）..... 350Hz
  Treble（可変幅）..... ± 6dB/0.5dB ステップ、20kHz
  Treble（ターンオーバー周波数）..... 3.5kHz
- フィルター特性（fc ＝ 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
  H.P.F（フロント、センター、サラウンド：小）..... 12dB/oct.
  L.P.F（サブウーファー）..... 24dB/oct.

ビデオ部

- ビデオ信号方式 ..... NTSC
- ビデオ信号方式（ビデオコンバージョン）..... NTSC/PAL
- 信号レベル
  コンポジットビデオ ..... 1Vp-p/75 Ω
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
  Y ..... 1Vp-p/75 Ω
  Cb/Cr ..... 0.7Vp-p/75 Ω
- ビデオ最大許容入力（ビデオコンバージョンオフ）..... 1.5Vp-p
- S/N 比 ..... 50dB 以上
- モニターアウト周波数帯域（ビデオコンバージョンオフ）
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ ..... 5Hz to 60MHz、-3dB

FM チューナー部

- 受信周波数範囲 ..... 76.0 ～ 90.0MHz
- 50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
  モノ ..... 3 μ V (20.8 dBf)
- S/N 比（IHF）
  モノ 72dB
  ステレオ 70dB
- 歪率（IHF、1 kHz）
  モノ 0.3%
  ステレオ 0.5%
- アンテナ入力 ..... 75 Ωアンバランス

AM チューナー部

- 受信周波数範囲 ..... 531 ～ 1611kHz

総合

- 電源電圧 ..... AC 100 V 50/60Hz
- 消費電力 175W
- 待機時消費電力
  HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ ..... 0.1W 以下
  HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン ..... 1.2W 以下
- 寸法 (幅×高さ×奥行き) ..... 435 x 151x 363mm
- 質量 ..... 8.2 kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053） 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053） 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

大阪　〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

© 2011 Yamaha Corporation Printed in Malaysia ⓓ ZA52460